

五...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

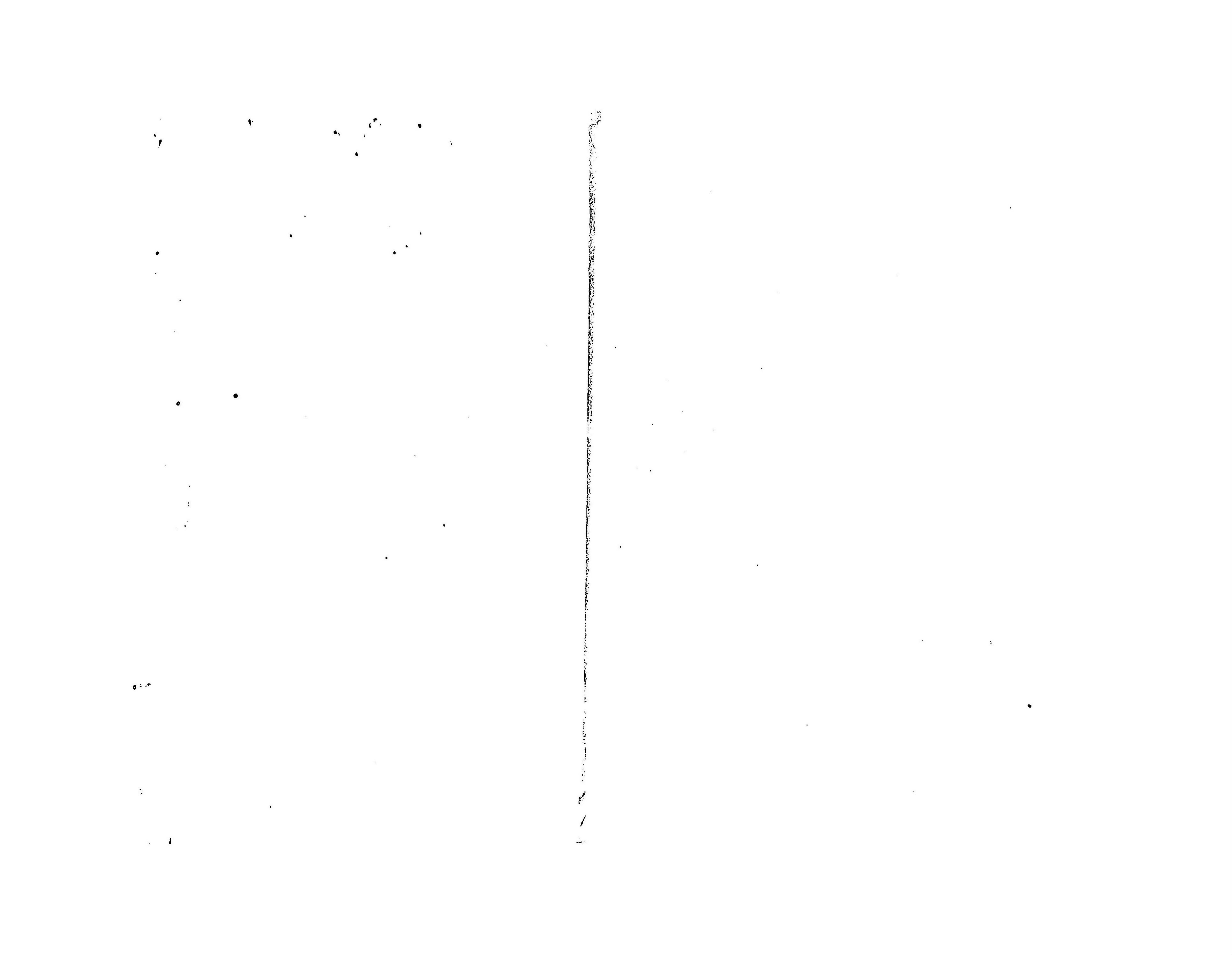
明治十二年八月改

增補  
新律綱領  
改定律例  
改正條例

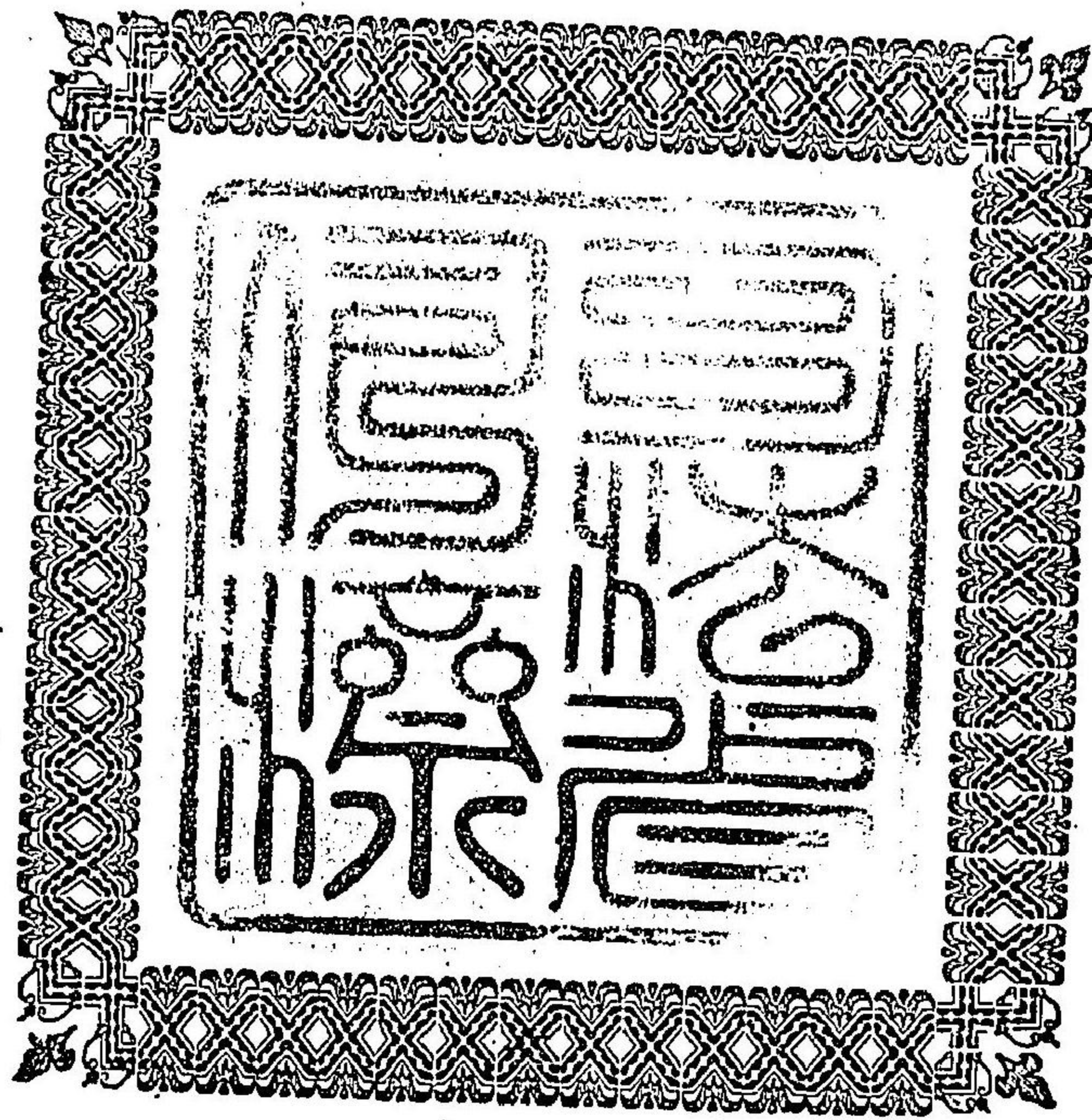
頭書同指今

合卷對比











上諭 新律綱領

朕刑部ニ勅シテ律書

ヲ改撰セシム乃チ綱

領六卷ヲ奏進ス朕在

廷諸臣ト議シ以テ頒

布ヲ允ス内外有司其

之ヲ遵守セヨ

明治三年庚午十二月

上諭 改定律例

朕曩ニ司法ニ勅シ國

家ノ成憲ニ原キ各國

ノ定律ヲ酌ミ改定律

例ヲ修撰セシム今ヤ

編纂成ヲ告ク朕乃チ

内閣諸臣ト辨論裁定

シ之ヲ頒行セシム爾臣

僚其レ之ヲ遵守セヨ

明治六年五月

上諭

上諭





天原山













# 法律

## 凡例

一 凡法律ハ既往ニ遡ノボラサルヲ以テ原則ト爲ス然レ  
モ若シ犯罪法律領行以前ニ在ル者ハ新舊ノ法ヲ比較  
シ輕ニ從テ罰セサルヲ得ス然則律例ノ改正増補ハ端  
ヲ讀律者ノ樞要トナス可キ處ニシテ容易看過ス可カ  
ラサルモノ也故ニ此編明治六年六月盜賊窩主條例ヲ  
首トシ明治十二年一月五刑條例中臬示ノ刑ヲ廢シ一  
般此刑ニ該ルモノハ斬ニ處スト云フノ改正ニ至ル迄  
這間凡五年ニ係ル改正條例ヲ漏失セス各例ニ遵照レ  
之ヲ訂正修臚ス

一 古人曰罪ノ疑ハシキハ是輕クセヨ噫心切ナル哉寧苛  
酷ナル論理ニ流ルハヨリ慣用法ノ適切ナルニ比擬セ  
スンハアル可カラス蓋司法省日誌及指令錄ノ如キハ  
專ハラ實況ニ就テノ伺指令ナレハ儘適用シテ益ナシ



トセス故ニ今ヤ日誌及指令録ニ就テ其實況ニ適合シ  
 タル二三ノモノヲ割録シ傍ハラ解釋ノ要ニ供セント  
 欲ス讀者請フ論理ニ流レス糠ヲ舍テ粹ヲ取ラント  
 一 法文渾テ簡約且往々解シ難キノ字アリ我輩ノ如キ文  
 字ノ乏キ者ニ至テハ儘字向ノ間ニ苦ミ手ニ字引ヲ捨  
 ルニ違アラス故ニ年來螢雪ノ勞ヲ顧ミス本文假名ヲ  
 兩側ニ施シ遂字引ノ結果ヲ爲ス然レモ必竟我徒ノ士  
 ニ供センヲ欲シ敢テ大人君子ヲ待ツ可キモノニ非  
 ラス讀者請フ其意ヲ諒セヨ

明治十二年四月上院

新律綱領總目錄		改定律例總目錄	
圖計八件	七職圖	圖計十二件	改正七職例圖
贖罪收賒例圖計八件	過失殺傷收賒圖	增補一件	改正贖罪收賒例圖
	徒限内老疾收賒圖		改正過失殺傷收賒例圖
	誣輕爲重收賒圖		官吏公罪賒例圖
	故失出入圖		官吏公罪罰棒例圖
			官吏私罪賒例圖
			革條賒罪例圖
			改正懲役限内老疾收賒例圖
			改正誣輕爲重收賒例圖
			改正故失出入例圖
			舊懲減免例圖
			滯獄罪收限後例圖

新律綱領 ○總目錄

改定律例 ○總目錄



トセス故ニ今ヤ日誌及指令録ニ就テ其實況ニ適合シ  
 ダル二三ノモヲ割録シ傍ハラ解釋ノ要ニ供セント  
 欲ス讀者請フ論理ニ流レズ糠ヲ舍テ粹ヲ取ラント  
 一法文渾テ簡約且往々解シ難キノ字アリ我輩ノ如キ文  
 字ノ乏キ者ニ至テハ儘字向ノ間ニ苦ミ手ニ字引ヲ捨  
 ルニ違フラス故ニ年來螢雪ノ勞ヲ顧ミス本文假名ヲ  
 兩側ニ施シ遂字引ノ結果ヲ爲ス然レモ必竟我徒ノ士  
 ニ供センコトヲ欲シ敢テ大人君子ヲ待ツ可キモノニ非  
 ラス讀者請フ其意ヲ諒セヨ

明治十二年四月上院

新律綱領總目錄		改定律例總目錄	
圖計八件	七賊圖	圖計十二件 增補一件	改正七賊例圖
贖罪收贖例圖 計八件	過失殺傷收贖圖	改正贖罪收贖例圖	改正過失殺傷收贖例圖
	徒限内老疾收贖圖	官吏公罪贖例圖	官吏公罪罰棒例圖
	誣輕爲重收贖圖	官吏私罪贖例圖	華族贖罪例圖
	故失出入圖	改正懲役限内老疾收贖例圖	改正誣輕爲重收贖例圖
		改正故失出入例圖	舊惡減免例圖
		滯獄罪收限後例圖	

新律綱領 ○總目錄

改定律例 ○總目錄



獄具圖	改正獄具圖
五等親圖	名例律上 計三十四條 增補十三條
名例律上 計二十三條	五刑 十條
五刑	同增補 二條
勅奏官位犯罪	勅奏官位犯罪 二條
同改正	同改正 四條
閏刑	閏刑 九條
同改正	同改正 三條
官吏犯公罪	官吏犯公罪 一條
同條例	同條例 三條
官吏犯私罪	官吏犯私罪 三條
同條例	同條例 一條
追奪位記	

有官僧徒犯罪	有官僧徒犯罪 一條
軍人犯罪	軍人犯罪 二條
糾彈官吏犯罪	糾彈官吏犯罪 一條
庶人犯罪不的決	平民犯罪不實斷 五條
犯罪得累減	
無官犯罪	
流囚家屬	
名例律下 計二十七條	名例律下 計六十六條 增補八條
犯罪存留養親	犯罪存留養親 一條
同改正	同改正 一條
婦女犯罪	婦女犯罪 二條
懲役人又犯罪	懲役人又犯罪 四條
同條例	同條例 一條
老小廢疾收贖	老小廢疾收贖 四條



犯罪時未老疾	給沒贓物	犯罪自首	二罪俱發以重論	犯罪共逃	同僚犯公罪	公事失錯	共犯罪分首徒	犯罪事發逃亡	親屬相為容隱	本條別有罪名	加減罪例
犯罪時未老疾 二條	給沒贓物 八條	犯罪自首 十一條	二罪俱發以重論 六條	犯罪共逃	同僚犯公罪 二條	同改正 一條	公事失錯 一條	共犯罪分首徒 二條	親屬相為容隱 二條	本條別有罪名	加減罪例 三條

再犯加等罪例	稱乘輿軍駕	稱同罪	稱監臨主守	稱日者以十二時	稱兩者以金兩	稱等內人	稱奴婢雇人	僧尼於受業師	斷罪無正條	斷罪依新領律	職制律 計一十五條
再犯加等罪例	稱乘輿軍駕	稱同罪 三條	稱監臨主守	稱日者以二十四時 四條	稱兩者以金兩 一條	稱等內人 一條	稱奴婢雇人 二條	僧尼於受業師	斷罪無正條 一條	斷罪依新領律 一條	職制律 計七條 增補二條

新律綱領 ○總目錄

改定律例 ○總目錄







逃亡	逃亡 五條
奴婢逃亡	
賊盜律 計二十二條	賊盜律 計三十二條 增補十八條
盜大祀神御物	盜大祀神御物 二條
盜乘輿服御物	盜乘輿服御物 一條
盜官文書	
盜官印	盜官印 一條
盜兵器	
盜園陵內草木	
監守自盜	監守自盜條例 一條
監守自盜	監守自盜條例 一條
常入盜	常入盜 一條

強盜	同條例 二條
劫囚	劫囚 一條
竊盜	竊盜 五條
盜官私牛馬	盜官私牛馬 二條
盜田野穀麥	
親屬相盜	親屬相盜 一條
奴婢盜家長財物	雇人盜家長財物 二條
恐喝取財	改正雇人盜家長財物律 一條
詐欺取財	
略賣人	略賣人 六條

新律綱領 ○總目錄

改定律例 ○總目錄



兇徒聚眾	夜無故入人家	盜賊高主	共謀為盜	人命律上 計二十條	謀殺	謀殺本屬長官	謀殺祖父母父母	謀殺家長	殺死姦夫	殺一家三人	覺他人	毒藥殺人
兇徒聚眾 四條	夜無故入人家 一條	盜賊高主 四條	同條例一條	人命律上 計二十一條	謀殺 五條	謀殺官吏 三條	謀殺祖父母父母 一條		殺死姦夫 四條	殺一家三人 一條		毒藥殺人 一條

關毆及故殺	屏去服食	人命律下 計二十六條	戲殺傷人	誤殺傍人	詐稱殺人	過失殺傷人	毆死有罪妻妾	殺奴婢	將屍圖賴	弓銃殺傷人	車馬殺傷人	庸醫殺傷人	威逼致死
關毆及故殺 五條	屏去服食 一條	人命律下 計二十七條				過失殺傷人 二條	毆死有罪妻妾 一條	殺雇人 二條	將屍圖賴 一條	弓銃殺傷人 二條	車馬殺傷人 二條		

新律綱領 ○總目錄

改定律例 ○總目錄



瘋癲殺人 六條	謀同死 二條	私和人命 一條	移地界內死屍 六條	同行知有謀害 一條	鬪毆律 計二十六條	鬪毆 七條	官殿內忿爭 一條	毆官吏 三條	毆受業師 一條	毆家長 二條	毆失 一條
------------	-----------	------------	--------------	--------------	--------------	----------	-------------	-----------	------------	-----------	----------

瘋癲殺人 六條	謀同死 二條	私和人命 一條	移地界內死屍 六條	同行知有謀害 一條	鬪毆律 計二十四條	鬪毆	官殿內忿爭	毆本屬長官	拒毆官司差人	毆受業師	威力制縛	毆家長	毆失
------------	-----------	------------	--------------	--------------	--------------	----	-------	-------	--------	------	------	-----	----

毆傷妻妾 一條	毆三等親以下尊長 二條	毆二等親尊長 二條	毆祖父母父母 三條	妻妾與夫親屬相毆 一條	父祖被毆 二條	罵詈律 計五條	罵人	罵本屬長官	罵家長	罵有服尊長	罵祖父母父母	越訴 計八條
------------	----------------	--------------	--------------	----------------	------------	------------	----	-------	-----	-------	--------	-----------

新律綱領 ○總目錄

改定律例 ○總目錄



承告不理	聽訟回避	誣告	干名犯義	子孫違教	教唆詞訟	官吏詞訟	受贓律 計一十條	官吏受財	坐贓致罪	事後受財	聽許財物	以財請求	官吏求借財物
		誣告 一條	干名犯義 一條	子孫違教 一條			受贓律 計四條 增補一條	官吏受財 一條	同條例 一條	事後受財 一條		以財請求 一條	

家人求索	因公利歛	尅留盜贓	受外國人餽送	詐偽律 計九條	詐為官文書	對詔上書詐不以實	偽造官印	偽造寶貨	偽造斛斗秤尺	偽造私印	詐稱官	詐稱病死傷
			受外國人餽送 一條	詐偽律 計十四條 增補二條	詐為官文書 一條	對詔上書詐不以實 一條	偽造官印 一條	偽造寶貨 十條	同條例 一條	偽造斛斗秤尺條例 一條	詐稱官 一條	

新律綱領 ○總目錄

改定律例 ○總目錄



詐教誘人犯法	犯姦律計五條	犯姦	親族相姦	姦家長妻女	姦部民妻女	居喪及僧尼犯姦	改正居喪犯姦律一條	犯姦條例四條	同條例三條	雜犯律計二十三條 增補四條	販賣鴉片烟	拆毀揭榜場	雜犯律計一十條
	犯姦律計九條 增補三條	犯姦一條	親屬相姦一條	姦家長妻一條	姦部民妻一條	居喪犯姦一條	同改正一條	改正居喪犯姦律一條	犯姦條例四條	同條例三條	雜犯律計二十三條 增補四條	拆毀揭榜場	雜犯律計一十條

賭博	囑託人事	失火	放火	費用受寄財產	得遺失物	違令	不應為	捕亡律計六條 增補一條	追補罪人	罪人拒捕
賭博四條	同改正一條	失火五條	同改正一條	同改正一條	放火四條	同改正二條	不應為三條	捕亡律計二十條 增補二條	追補罪人一條	罪人拒捕

新律綱領 ○總目錄

改定律綱 ○總目錄















































































折杖 二百四十	二年 六兩	折杖 三百	二年半 七兩二分	折杖 三百六十 三年 九兩
------------	----------	----------	-------------	------------------------

人ヲ徒二年ニ告ル如キ。内止シ徒一年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖一百二十。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ徒一年ヲ全抵ス。如シ未タ決セザレハ杖一百ヲ實決シテ餘罪二十ヲ金二分ニ賚ハシム。	人ヲ徒二年半ニ告ル如キ。内止シ徒二年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖三百。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ杖六十ヲ全抵ス。如シ未タ決セザレハ杖六十ヲ金一兩二分ニ賚ハシム。	人ヲ流一等ニ告ル如キ。内止シ杖九十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖三百三十。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ徒二年半ヲ全抵ス。杖三十ヲ除去ス。如シ未タ決セザレハ杖一百ヲ實決シテ餘罪二百三十ヲ金五兩三分ニ賚ハシム。	人ヲ流二等ニ告ル如キ。内止シ徒一年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖八十。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ杖六十ヲ全抵ス。如シ未タ決セザレハ杖六十ヲ金一兩二分ニ賚ハシム。	人ヲ流三等ニ告ル如キ。内止シ杖五十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖九十。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ徒四年ヲ全抵ス。杖一十ヲ除去ス。如シ未タ決セザレハ杖一十ヲ實決シテ餘罪三百九十ヲ金九兩三分ニ賚ハシム。
--	--	---	---	--

折原杖 二百四十	二年 圓六	折原杖 三百	二年半 圓七	折原杖 三百六十 三年 圓九
-------------	----------	-----------	-----------	-------------------------

人ヲ懲役二年ニ告ル如キ。内止シ一年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖一百二十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ懲役一年ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖一百ヲ懲役百日ニ折斷シテ餘罪原杖二十ヲ金五十錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役二年半ニ告ル如キ。内止シ二年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖三百。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ懲役六十日ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖六十ヲ金一圓五十錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役五年ニ告ル如キ。内止シ杖九十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖三百三十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ去シ告誣スル者ニ懲役二年半ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖一百ヲ懲役百日ニ折斷シテ餘罪原杖二百三十ヲ金八圓二十一錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役七年ニ告ル如キ。内止シ五年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖六十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ原杖六十ヲ全抵ス。懲役六十日ニ折斷ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖六十ヲ金二圓六十二錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役十年ニ告ル如キ。内止シ原杖五十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖九十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ去シ告誣スル者ニ懲役四年ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖一十ヲ懲役百日ニ折斷シテ餘罪原杖三百九十ヲ金二十一圓六十八錢ニ賚ハシム。
--	--	---	---	---

折杖 二百四十	二年 六兩	折杖 三百	二年半 七兩二分	折杖 三百六十 三年 九兩
------------	----------	----------	-------------	------------------------

人ヲ流一等ニ告ル如キ。内止シ杖九十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖三百三十。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ徒二年半ヲ全抵ス。杖三十ヲ除去ス。如シ未タ決セザレハ杖一百ヲ實決シテ餘罪二百三十ヲ金五兩三分ニ賚ハシム。	人ヲ流二等ニ告ル如キ。内止シ徒一年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖八十。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ杖六十ヲ全抵ス。如シ未タ決セザレハ杖六十ヲ金一兩二分ニ賚ハシム。	人ヲ流三等ニ告ル如キ。内止シ杖五十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖九十。已ニ受決ヲ經レハ告誣スル者ニ徒四年ヲ全抵ス。杖一十ヲ除去ス。如シ未タ決セザレハ杖一十ヲ實決シテ餘罪三百九十ヲ金九兩三分ニ賚ハシム。
---	---	--

折原杖 二百四十	二年 圓六	折原杖 三百	二年半 圓七	折原杖 三百六十 三年 圓九
-------------	----------	-----------	-----------	-------------------------

人ヲ懲役二年ニ告ル如キ。内止シ一年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖一百二十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ懲役一年ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖一百ヲ懲役百日ニ折斷シテ餘罪原杖二十ヲ金五十錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役二年半ニ告ル如キ。内止シ二年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖三百。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ懲役六十日ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖六十ヲ金一圓五十錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役五年ニ告ル如キ。内止シ杖九十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖三百三十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ去シ告誣スル者ニ懲役二年半ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖一百ヲ懲役百日ニ折斷シテ餘罪原杖二百三十ヲ金八圓二十一錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役七年ニ告ル如キ。内止シ五年。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖六十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ原杖六十ヲ全抵ス。懲役六十日ニ折斷ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖六十ヲ金二圓六十二錢ニ賚ハシム。	人ヲ懲役十年ニ告ル如キ。内止シ原杖五十。實ヲ得テ刺ル所ノ原杖九十。已ニ受斷ヲ經レハ告誣スル者ニ去シ告誣スル者ニ懲役四年ヲ全抵ス。未タ受斷ヲ經サレハ原杖一十ヲ懲役百日ニ折斷シテ餘罪原杖三百九十ヲ金二十一圓六十八錢ニ賚ハシム。
--	--	---	---	---

新律綱領

〇誣證為重收賂例

改定律例

〇改正誣證為收賂例







五十	四十	三十
	流一等ヲ故出シテ。管四十ト為ス カ如キ。已ニ決放スレハ。本罪管四 十ヲ除キ。刑杖三百八十。徒三年ニ 坐シ。零二十ヲ除去ス。未タ決放セ サレハ。一等ヲ減シ。徒二年半ニ坐 ス。	
四十日	三十日	二十日
懲役三年ヲ故出シテ四十日ト為 スカ如キ。已ニ斷了スレハ。本罪四 十日ヲ除キ。原杖三百八十。零二十 ヲ除去シ。懲役三年ニ坐ス。未タ斷 了セサレハ。一等ヲ減シ。懲役二年 半ニ坐ス。		懲役十年ヲ失出シテ。二十日ト為 スカ如キ。已ニ斷了スレハ。三等ヲ 減シテ。二年本罪二十日ヲ除キ。判 原杖二百二十。零四十ヲ除去シ。判 官。官サレハ。懲役一年半ニ坐シ。次 官ハ。又一等ヲ減シ。一年半本罪二 十日ヲ除キ。判原杖百六十。零四十 ヲ除去シ。懲役一年ニ坐シ。長官ハ。又 一等ヲ減シ。主典ハ。又一等ヲ減ス。

八十	七十	杖六十
七十日	六十日	五十日

新律綱領

○故失出入四

改定律例

○故失出入四

























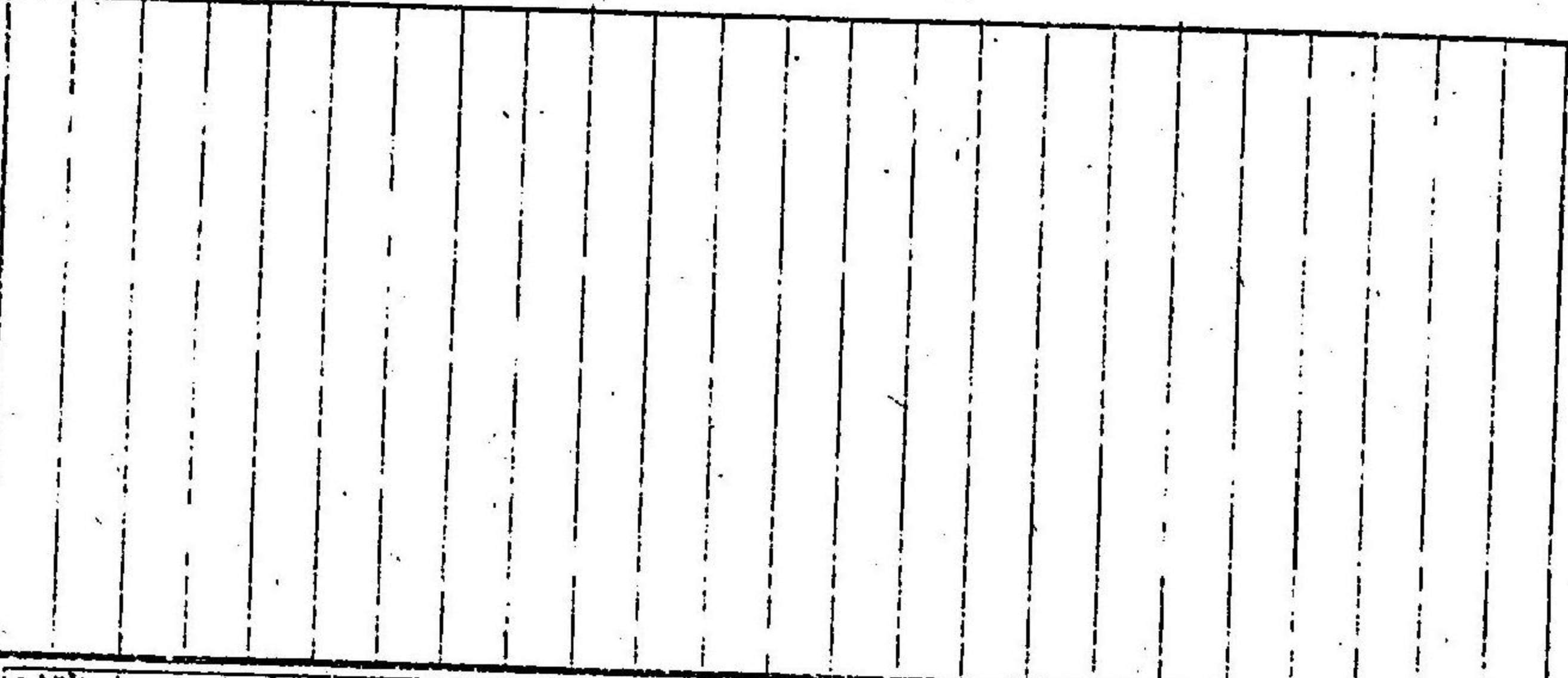
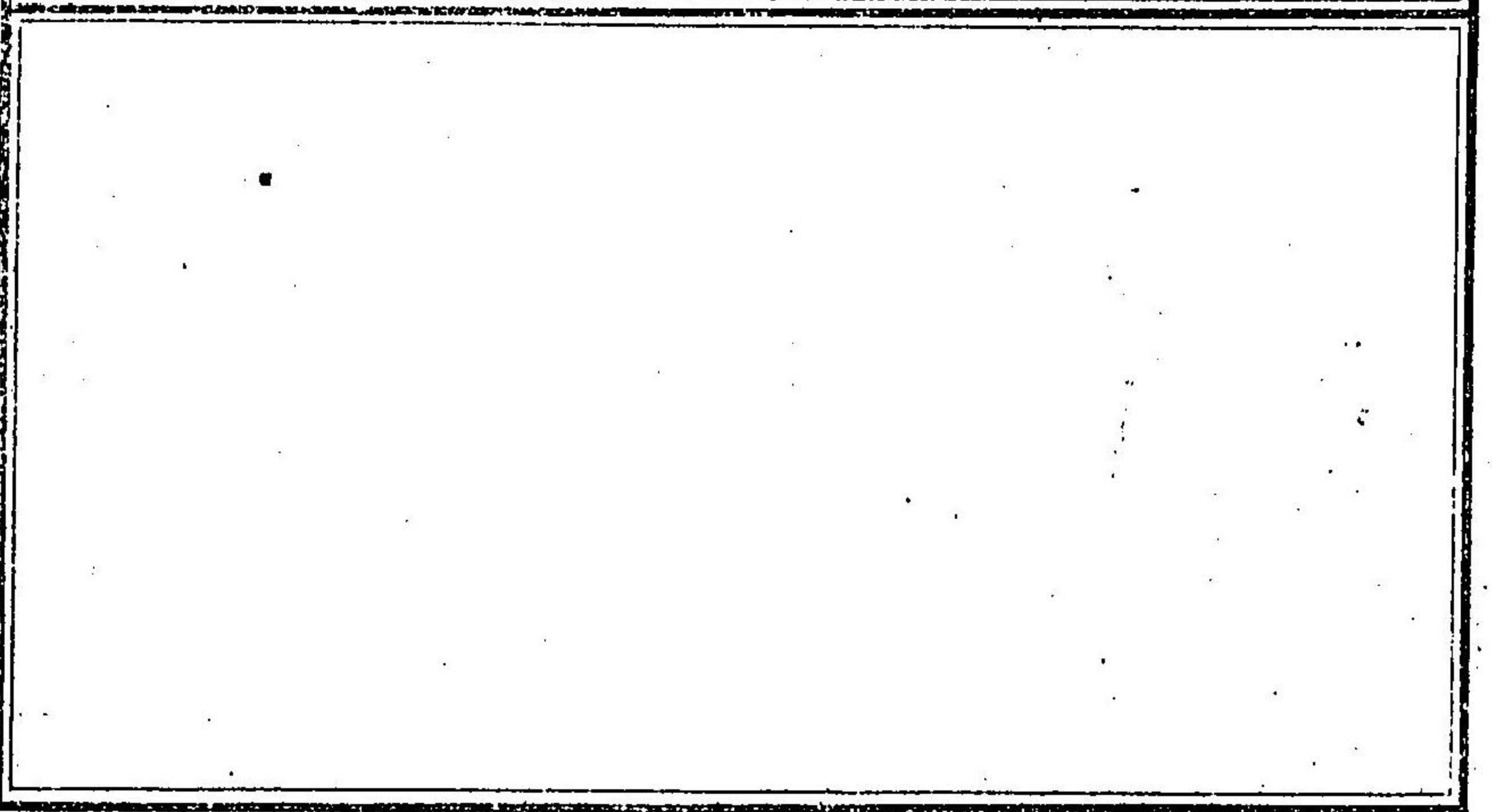
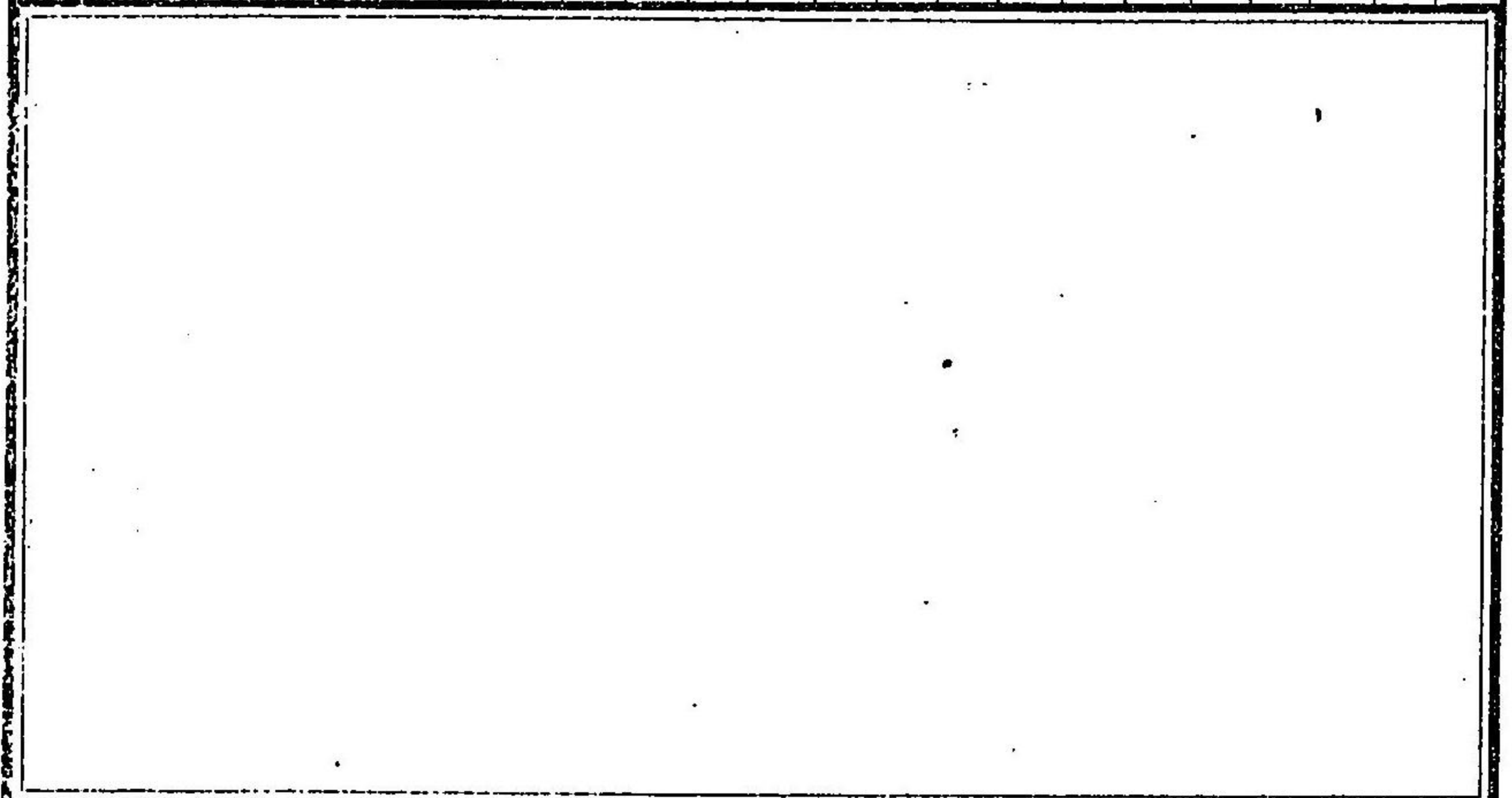
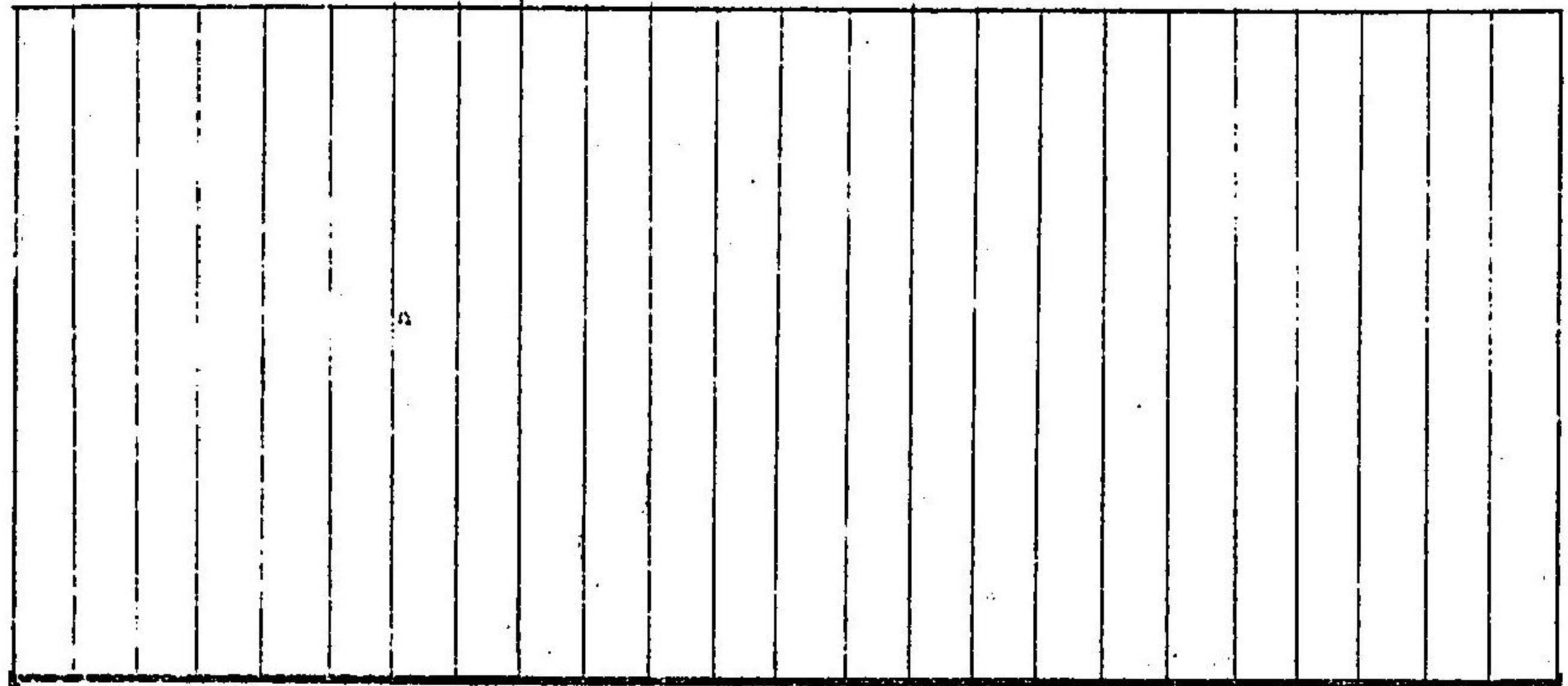




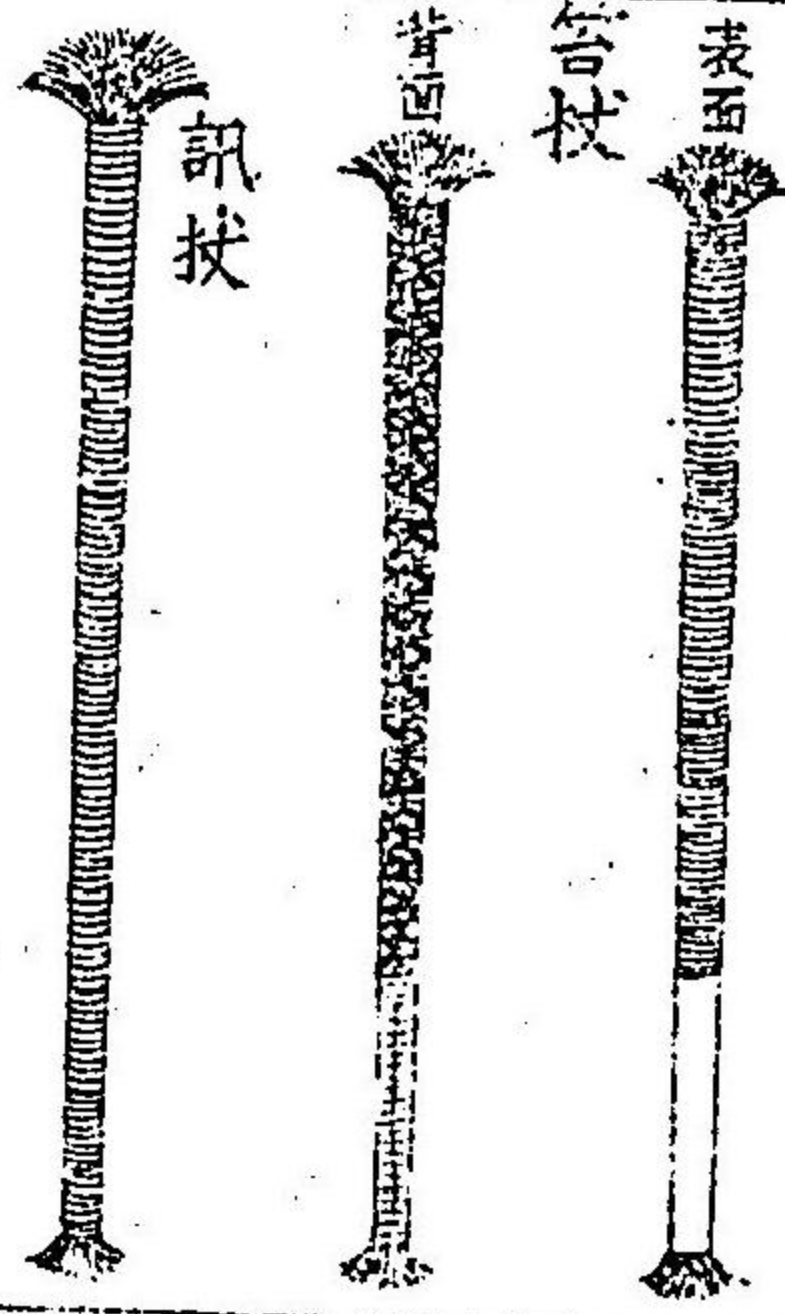








獄具圖



凡管ハ竹片ヲ以テ之ヲ為シ疎節ヲ削去ス。大頭濶曲尺七分。厚サ五分五厘。小頭濶サ四分二厘。厚サ大頭ニ同シ。長サ一尺八寸。麻ヲ以テ堅ニ之ヲ裏シ。大頭ハ断餘ヲ片頭ニ寸二分ヲ剩シ。小頭ハ六分ヲ餘シ。貫錢ヲ以テ密ニ其外ヲ平帖纏纏シ一纏毎...

新律綱領 ○獄具圖

改正獄具圖

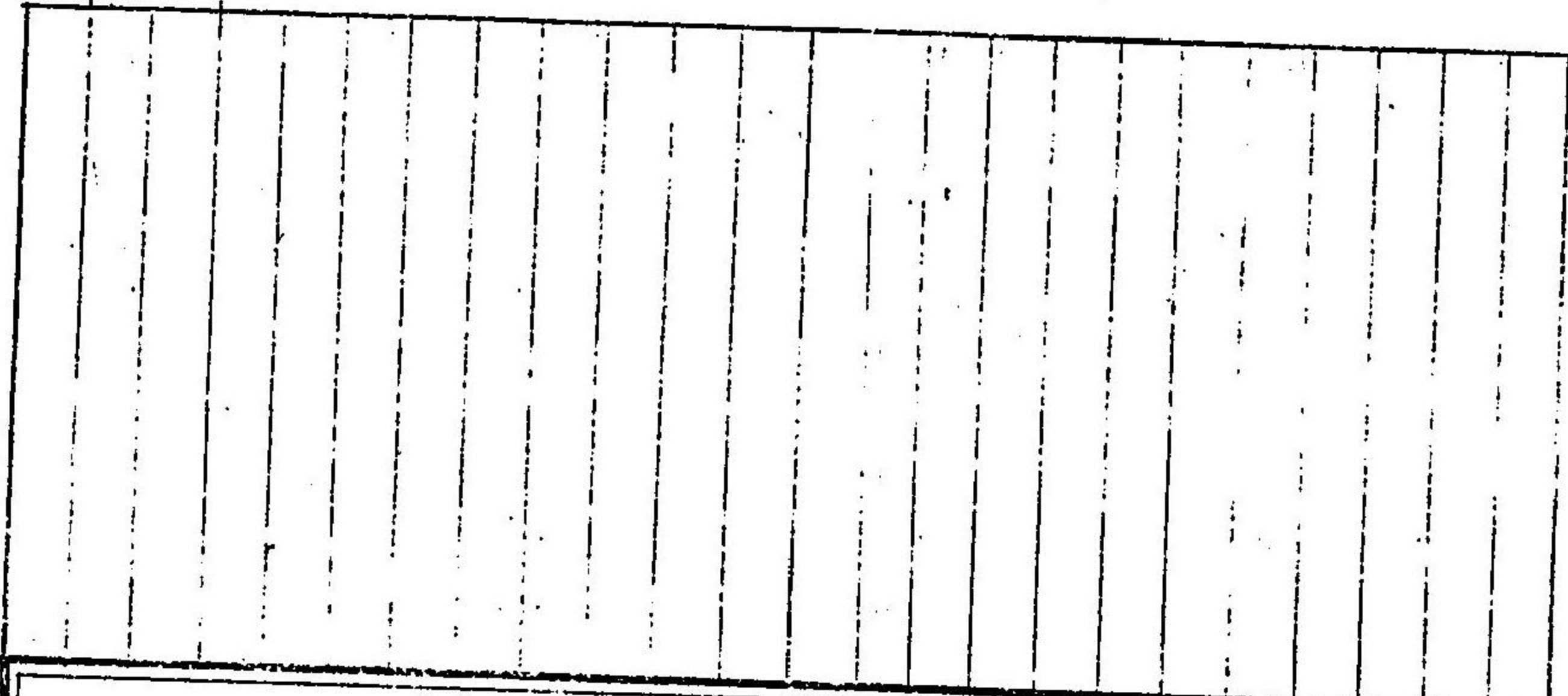
訊杖其圓曲尺五分。改テ徑曲尺五分。圓一寸五分ト為ス。絞架子廢レテ絞架ニ換フ。

絞架全圖

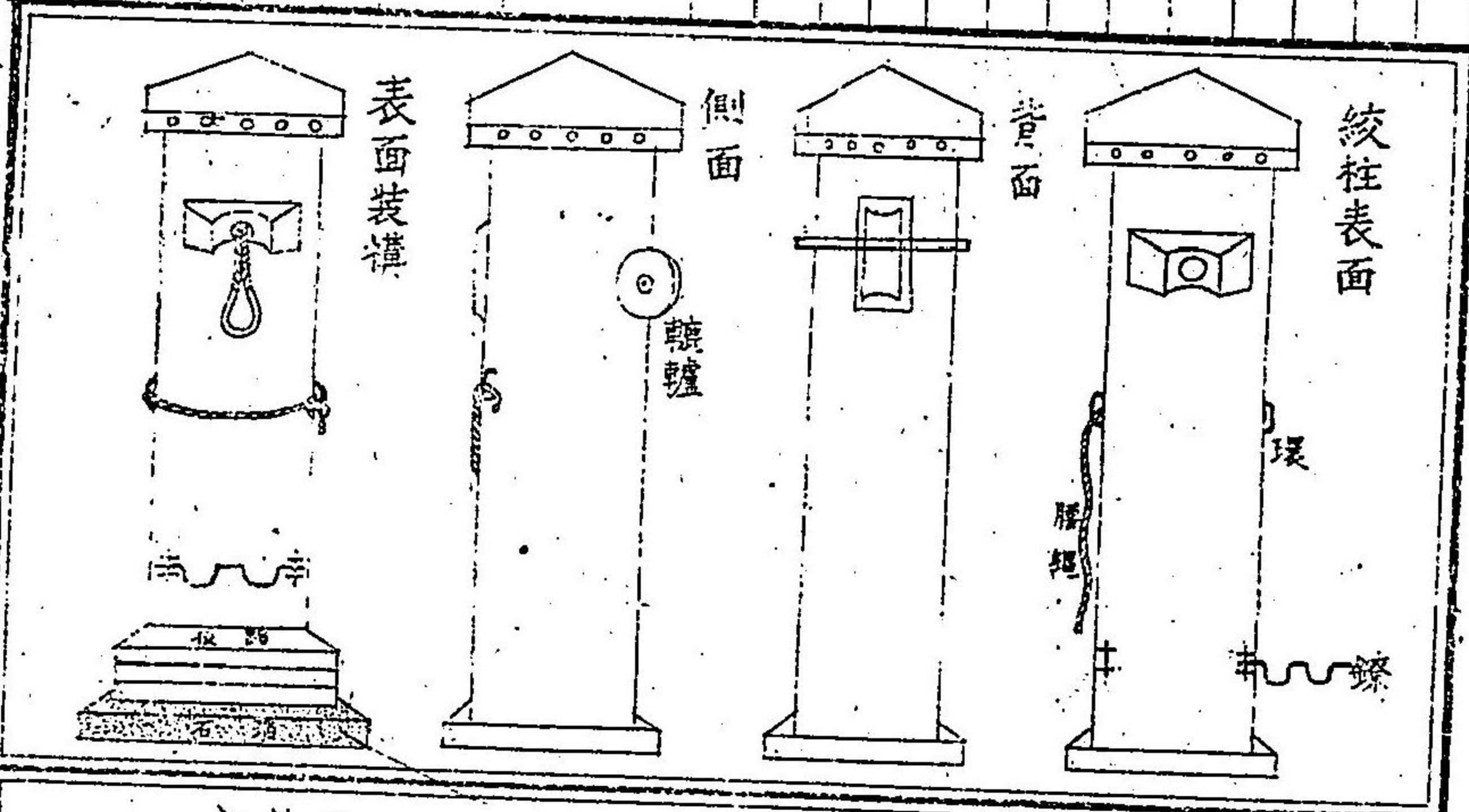
本圖死囚二人ヲ絞ス。可キ裝構ナリト雖モ其三人以上ノ處刑ニ用フルモ亦之ニ模倣シテ作リ。漆墨ヲ以テ全ク塗ル可シ。

改定律例 ○改正獄具圖

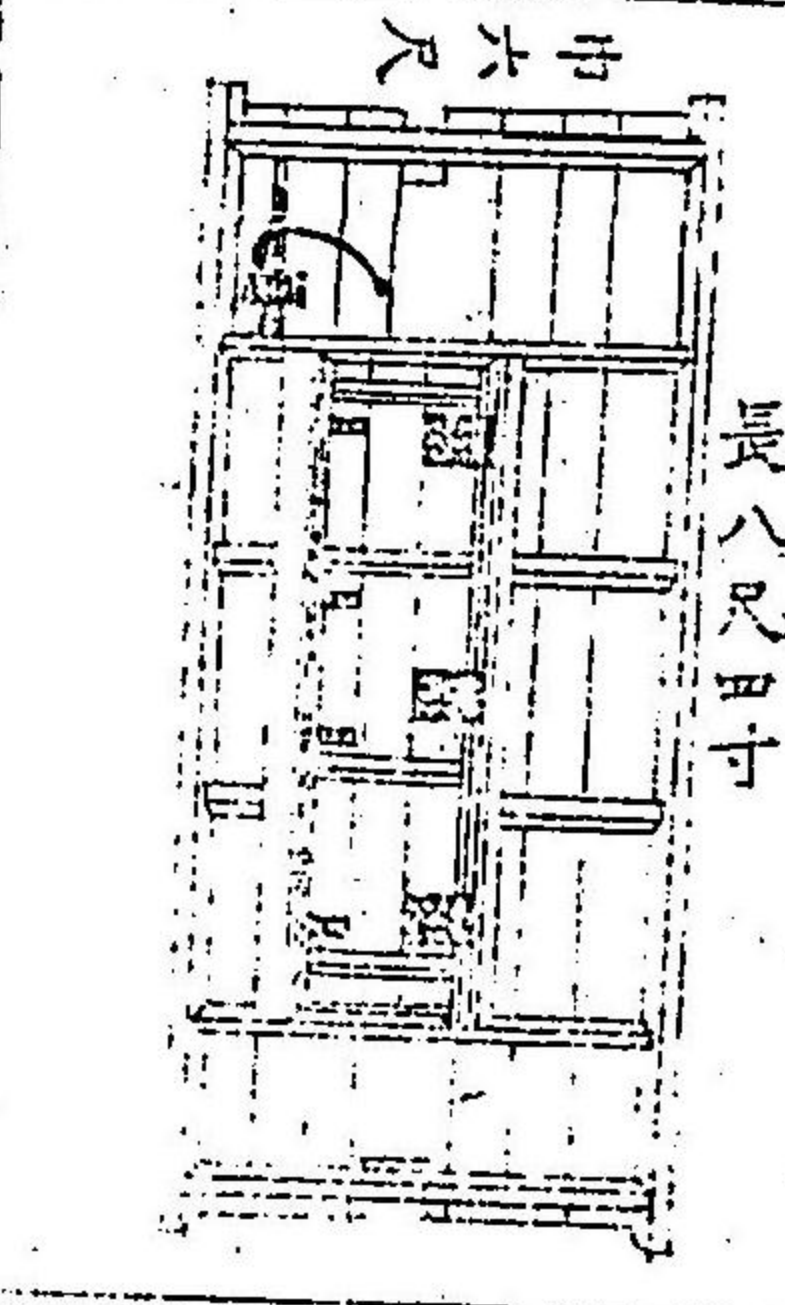




新律綱領 ○獄具圖



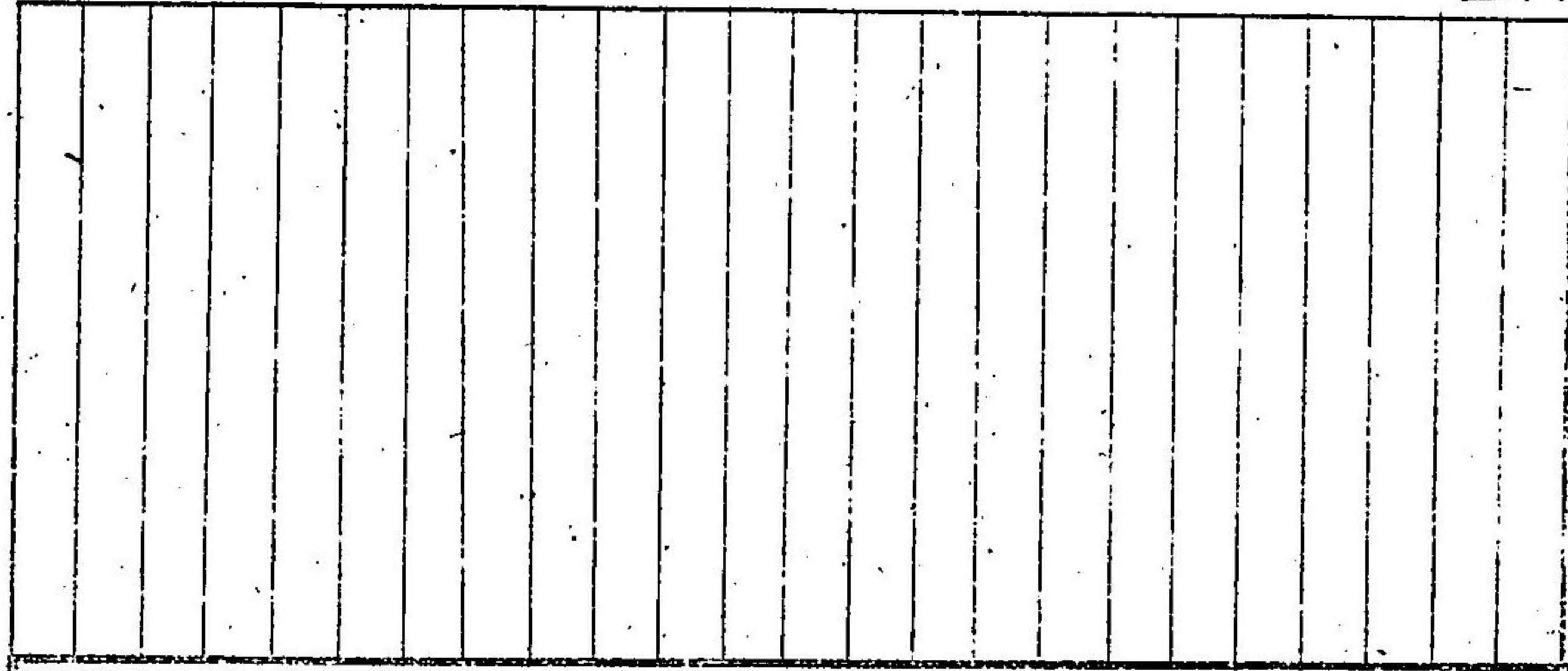
改定律例 ○改正獄具圖



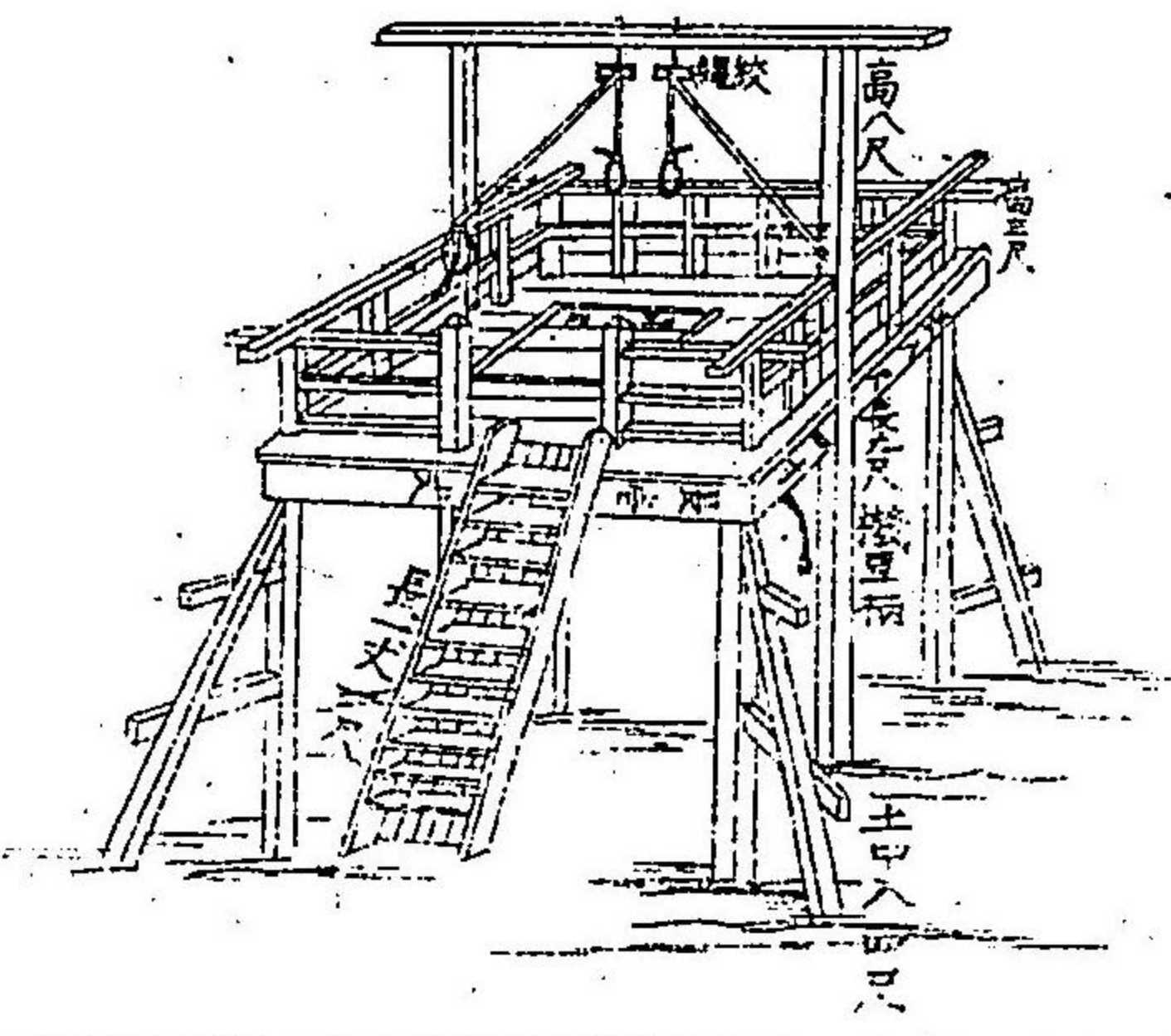
踏板裏面圖

長八尺四寸

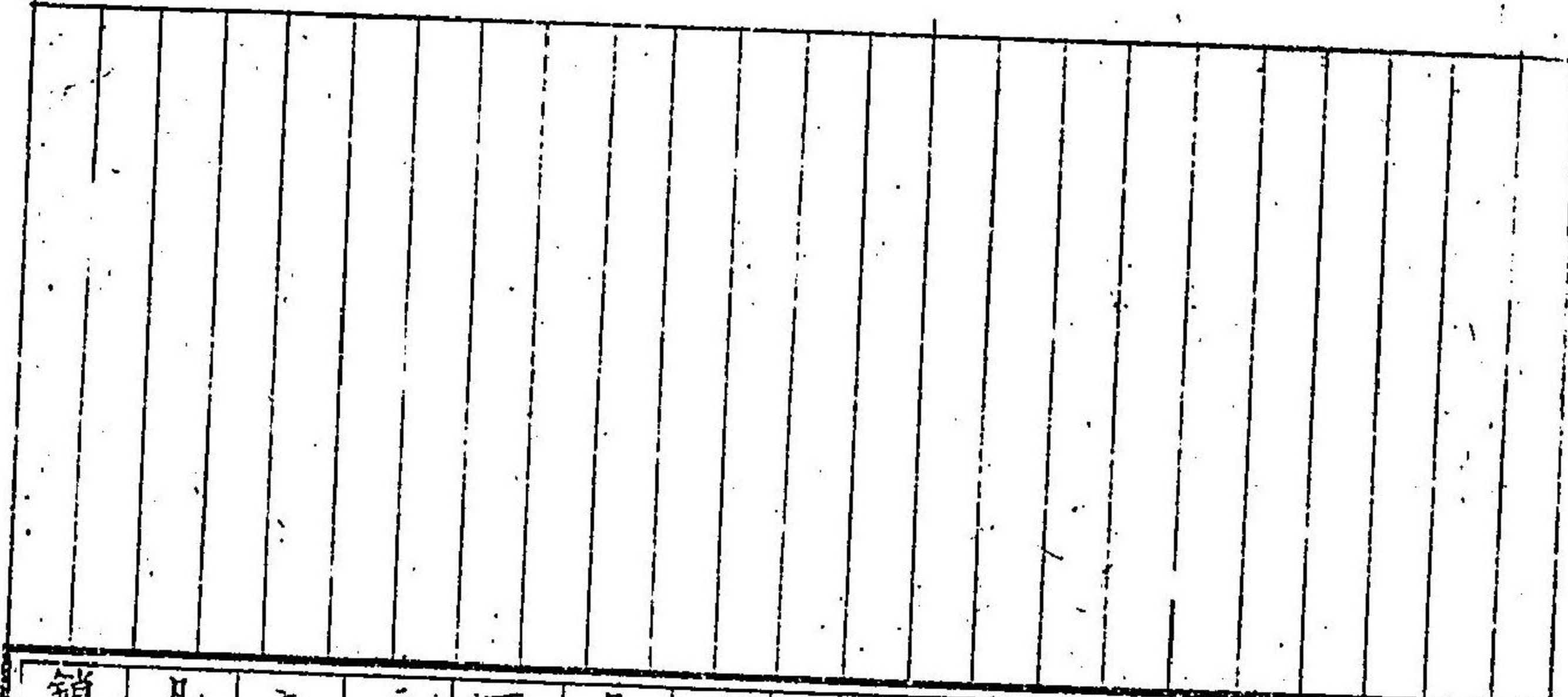
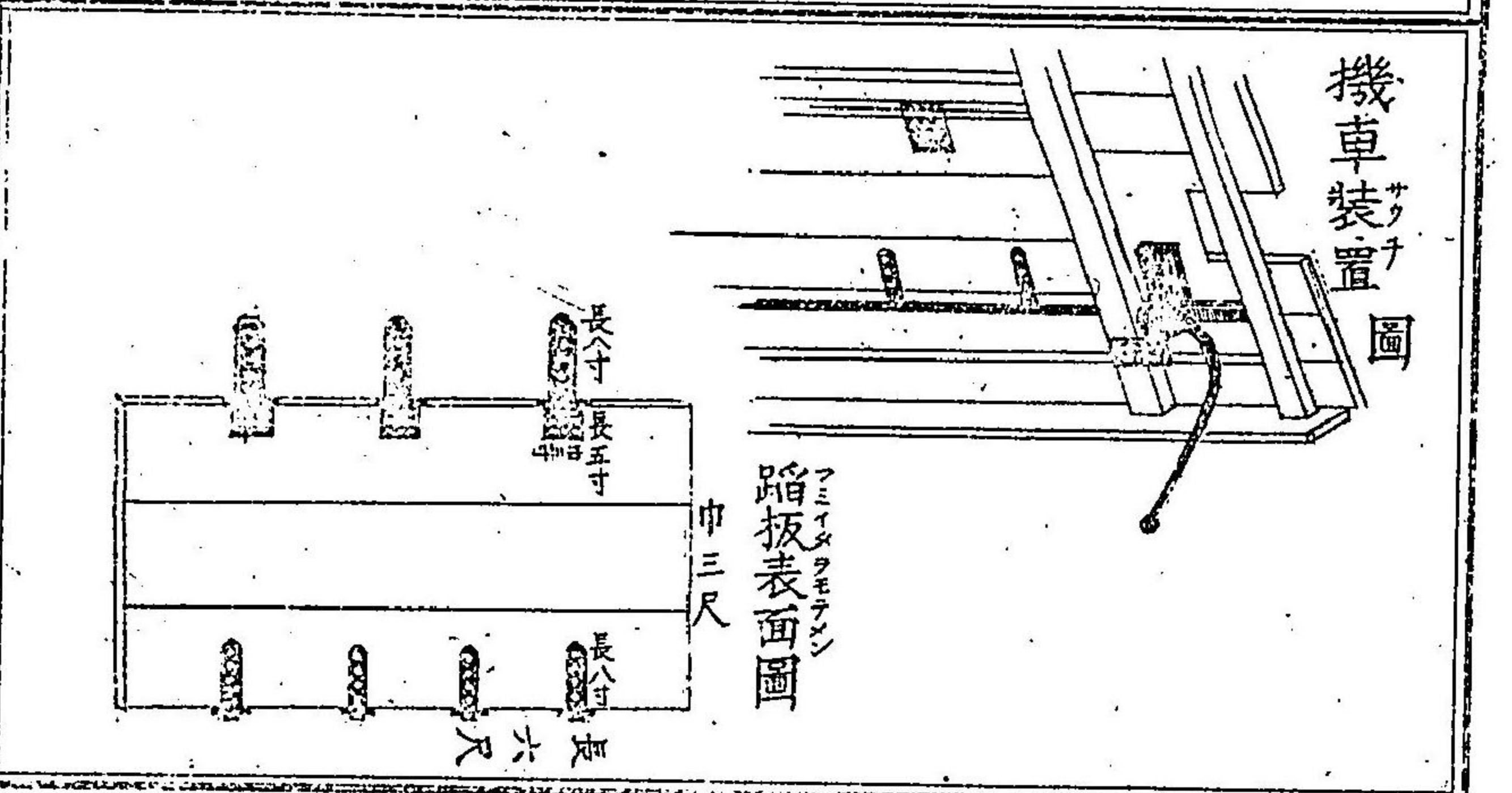
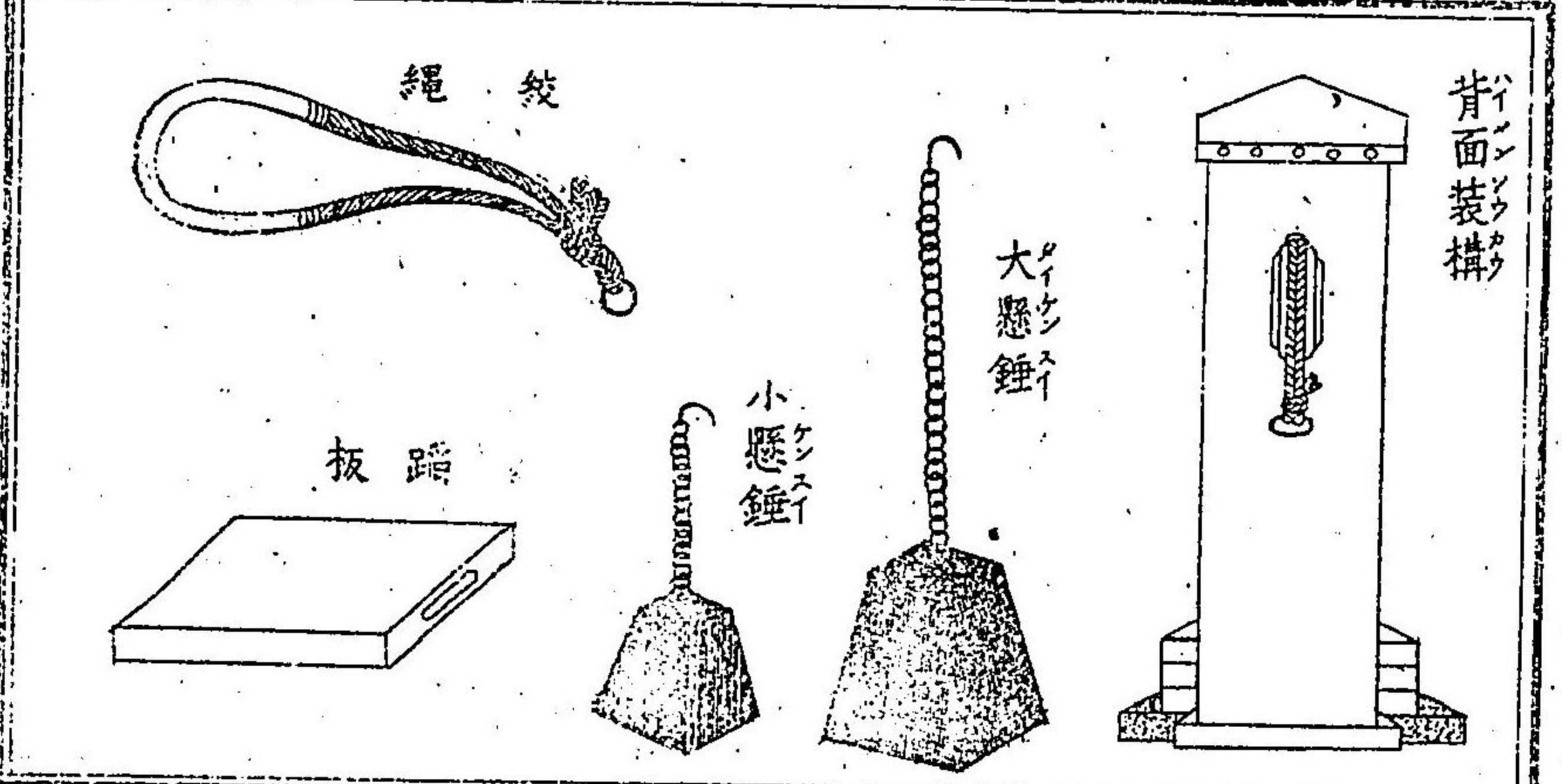
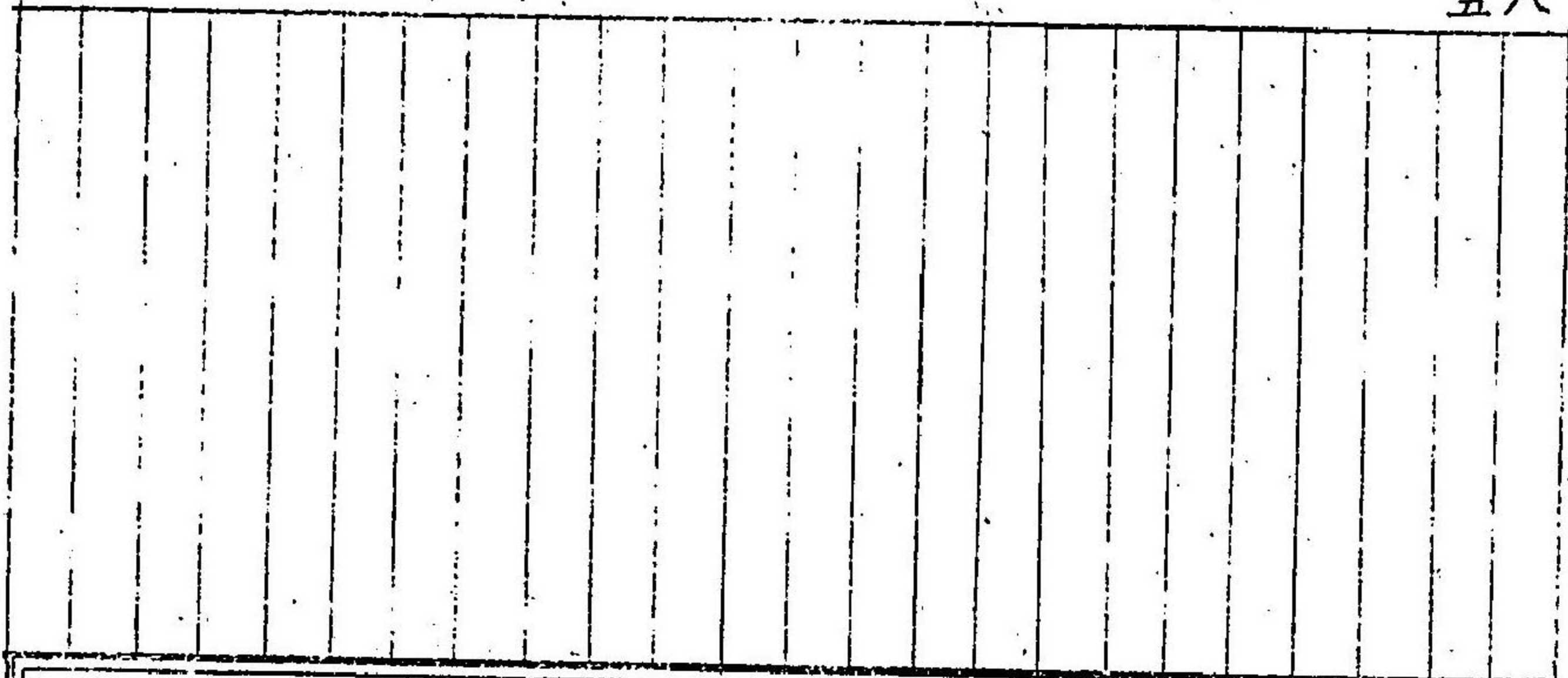
凡絞刑ヲ行フニハ先ツ兩手ヲ背ニ縛レ紙ニテ面ヲ掩シ引テ絞架ニ登セ踏板上ニ立シメ次ニ兩足ヲ縛シ次ニ絞繩ヲ首項ニ施シ其咽喉ニ當ラシメ繩ヲ穿ツトコロノ鐵環ヲ項後ニ及ホシ之ヲ緊縮メ次ニ機車ノ柄ヲ挽ケハ踏板忽チ開落シテ囚身(地ヲ離ル凡一尺)空ニ懸ル凡二分時死相ヲ驗シテ解下ス



二脊ニ交結テ一條綾ノ成ニ白色堂長サ五寸ト以テ其小頭ヲ包ム外圍大頭ニ寸三分小頭寸五分打決スル者ハ其小頭ヲ執リ表面ヲ脛腰ヲ交打ス  
凡杖ハ大頭濶曲尺八分厚五分五厘小頭濶五分厚寸大頭同長サ二尺一寸三分麻ニ以テ堅之ヲ裏大頭ハ斷餘寸三分小頭ハ七分厚頭ニ刺ス外圍大頭二寸六分小頭一寸八分製法皆ノ如シ  
凡訊杖ハ竹片三個ヲ内合ニ圓形ニ成ニ其圍曲尺五分兩頭大サア如ク長サ三尺水囊以テ堅之ヲ裏小麻繩ヲ以テ密ニ横纏ス其重罪ヲ犯シ賊證明白ナルニ招承ニ服セサル者ヲ拷訊ス





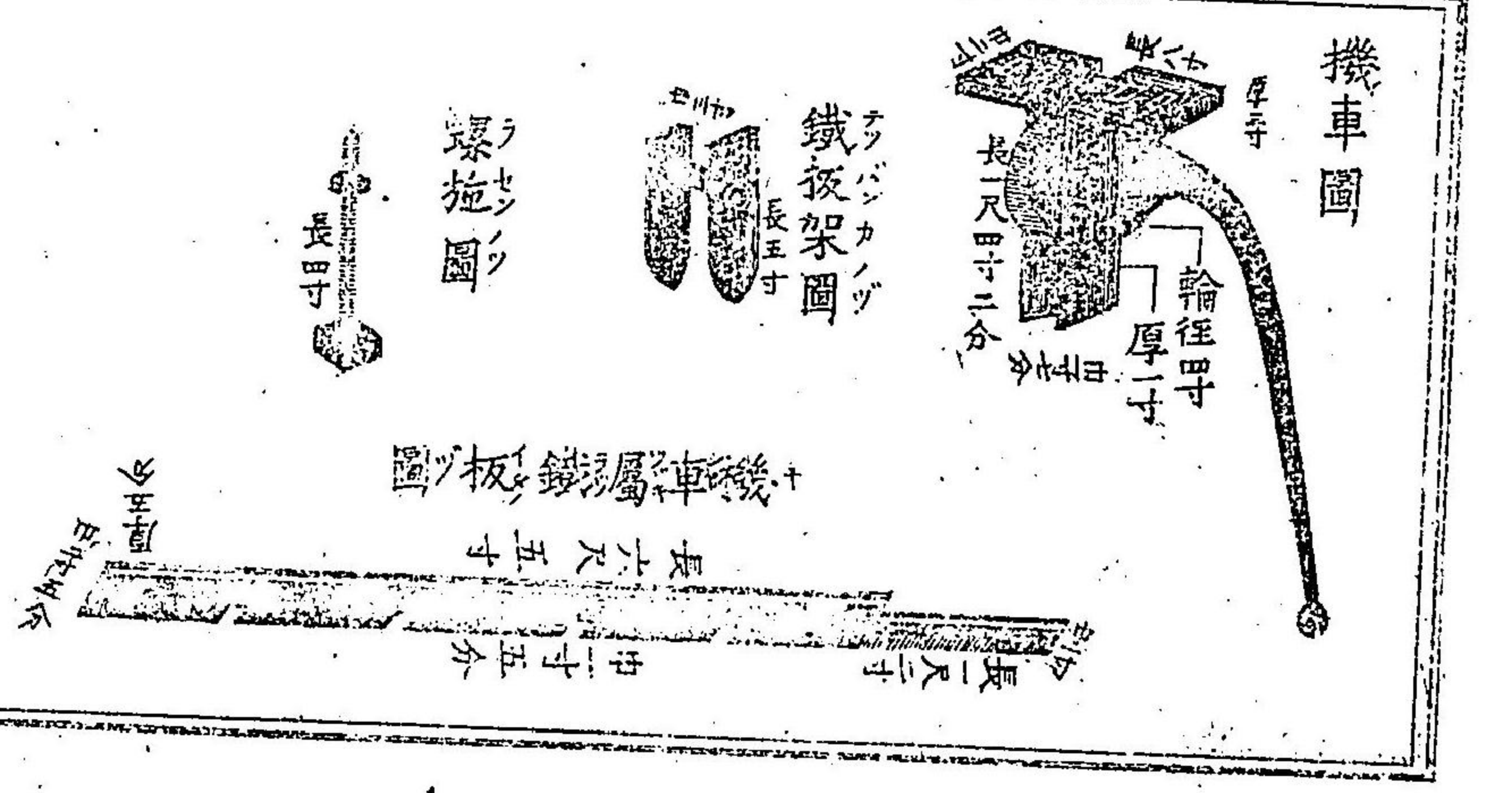


凡絞柱ハ樑木ヲ以テ之ヲ爲シ長サ一丈地ニ入ルニ二尺地ヲ出ルハ八尺銅板ニテ柱頭ヲ冒覆シ表面下ヨリ上ルニ六尺ニシテ水枕ヲ施シ其中ニ穴ニ柱ノ穴ニ當ル處竅ヲ鑿シ背ニ通シ内ニ轆轤ヲ設ケ絞繩ヲ懸送スルニ擬シ腰ニ當ル處左右側面ニ鐵線ヲ施シ腰繩ヲ收スルニ擬シ表面其下ニ鐵線ヲ設ケ足ヲ收スルニ擬シ凡絞繩ハ麻ヲ以テ之ヲ爲シ長サ六尺頂下ニ當ル處凡八寸白布ニテ之ヲ包シ白草ニテ其外ヲ裝裱シ左右ヨリ雙合シ端尾ニ鐵線ヲ施シ懸鐵ヲ鈎スルニ擬ス

凡懸錘ハ鐵ヲ以テ之ヲ鑄ル大ナル者ハ鐵鎖ヲ合シ重サ十三貫小ナル者ハ重サ七

新律綱領 ○ 獄具圖

改定律例 ○ 改正獄具圖

















可然哉 囚人ヲシテ代書ヤシムルヲ得  
 ○八年第九十四号三階縣同 十二月四日  
 例等ニ依リ懲役十年ノ上ニ終身ノ刑ヲ  
 設ケテ網領中改定無之分ト雖モ右ハ罪  
 ヲ除クノ外絞罪トモ一体ニ寛宥シテ懲  
 役終身ニ可被處儀ト存得共妻夫ヲ殺  
 テ死ニ至リ罪人捕吏ヲ殺テ殺ス者等ハ  
 尋常故殺ニ比スレハ情状却テ重キ者ニ  
 可有之然ルヲ懲役終身ニ止ルハ權衡如  
 何ト疑團ヲ生シ上等裁判所同見込上ニ  
 於テ臨斷致シ候◎妻夫ヲ殺テ罪人捕吏  
 ヲ殺テ死ニ致ス等例ニ於テ改正セサル  
 者ハ本律ノ通り處分ニ及フヘキ儀ト心  
 得ハシ  
 ○九年第九号滋賀縣同 三月十四日  
 懲役限内又罪ヲ犯シ吟味中未決監ニ拘  
 置スル日數ハ原限内ニ等入セサル儀  
 ト存候得共若シ口供甘結後滞獄三十日  
 ヲ除ク外曠過スル日數本罪ニ過ル時ハ  
 原日數ノ内ニテ扣除シ可然哉 伺ノ  
 運  
 ○九年第十八号九戸縣同 一月十七日  
 懲役終身ノ囚本罪ニ一等ヲ減スル片ハ

軍人犯罪	糾彈官吏犯罪	平民犯罪不的決	犯罪得累減	無官犯罪	流囚家屬
------	--------	---------	-------	------	------

軍人犯罪 二條	糾彈官吏犯罪 一條	平民犯罪不實斷 五條
---------	-----------	------------

懲役十年ナリ共之ヲ起算スルヤ其刑名  
 ヲ更合スル日ニアルカ將テ從過スル日  
 數ニ通算スルカ若シ果シテ從過スル日  
 數ニ過算ストナラハ十年ニ過ル者モア  
 ル可シ右ハ直ニ放免シ可然哉◎已ニ役  
 過スル日數ヲ通算シ十年ニ過ル者ハ放  
 免ス可シ  
 ○七年第五十七号同書 三月十八日  
 位階勅奏判按區別ノ義已巳七月中御達  
 有之候ニ付有位ノ輩六位以上ハ奏任ニ  
 準シ七位以下ハ判任官ニ準シ取扱可申  
 候哉又ハ其後官位相當被處候ニ付テハ  
 位階ノ區別モ相當リ候儀ニ有之候哉有  
 位非職ノ輩有位ノ判任官又ハ有位ノ輩  
 士族有位ノ平民等位階ノ差ニヨリ夫  
 々取扱方區別モ有之候哉◎伺ノ趣從四  
 位以上勅授候ハ位以上奏授正從九位判  
 授ト可相心得事  
 ○七年第六十八号茨城裁判所同 計明  
 甲十二号御布達ノ内判任以下犯罪云々  
 ノ伺ニ◎各縣人民ヨリ起ル事件ニテ合  
 以下奏任ニ連及スルハ司法裁判所ニテ  
 處斷シ其判任以下限ノ分ハ地方裁判  
 所ニテ處斷ス可シ

新律綱領

五刑	答刑五	一十	二十	三十	四十	五十	凡答ハ數一十二起リ五十二止ル倘シ 罪答五十ヨリ重キ者ハ答ヲ出シ杖ニ 從ヒ以テ輕重ノ衡ヲ別ツ	杖刑五	六十
----	-----	----	----	----	----	----	---	-----	----

改定律例

五刑條例	第一條 凡答杖徒流ノ刑名ヲ改メ一 體ニ懲役ニ換ヘ例ニ照シテ役ニ服ス 懲役十日 刑答一十	二十日 二十	三十日 三十	四十日 四十	五十日 五十	六十日 原杖六十	七十日 七十	八十日 八十	九十日 九十
------	---	--------	--------	--------	--------	----------	--------	--------	--------

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



〇八年第四十号伺書 三月十四日  
 御指令〇伺ノ趣從四位以上勳授從九位以上奏授初位判授ノ可相心得且有位非授ノ輩以上ハ勳任ニ准シ從九位以上ハ奏任ニ准シ初位ハ判任ニ准シ取扱可申事  
 〇八年第  
 勅奉旨及ヒ奉詔ニシテ證券印稅又ハ勅便規則等ヲ犯ス者之アリ右ハ其罰則中夜令ハ可科罰金ノ明文アルモ仍ホ處分ハ奏請ノ本法ヲ入スニ可有之哉〇奏請ノ本法ニ依ルヘシ  
 〇九年第五十三号滋賀縣伺 五月一日  
 官吏草士族ノ誹謗津ヲ犯シ禁獄ニ處ヤントスル時ハ如何ノ手續ヲナシ可然哉  
 〇勅奉旨位奉詔ハ尋常犯罪ノ通奏請シテ處分ス  
 〇指令録第九七号福島裁判所伺  
 指令奉族ハ無位子孫ノ奏請ヲ經ス喚問ス共一寺住僧ノ僧ト爲ル者モ無位ノ子孫ニ係レハ同謀取扱ヲ可シ勅奉旨指當ノ職ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス  
 七年  
 士族一應ノ私罪ハ禁錮ニ處スルノ處無

七十
八十
九十
一百
凡杖ハ六十二始リ一百ニ止ル蓋シ頑梗弗卒徒耻心已ニ冥シ管以テ其懼心ヲ動ス可キ非ハ故ニ杖ニ入レ以テ懲示ス
徒刑五
一年
一年半
二年
二年半
三年
凡徒ハ各府藩縣其徒場ニ入レ地方ノ便宜ニ依テ

百日	一百
一年	原徒一年
一年半	一年半
二年	二年
二年半	二年半
三年	三年
五年	原流一等
七年	二等
十年	三等
第三條	凡懲役十年ノ上ニ懲役終身ノ刑ヲ設ケ其犯罪持兇器強盜監守常人盜謀故殺放火及獄偽造實貨ノ除外罪死誡ル者一昧ニ寛宥シテ此刑ニ科ス
第二條	凡懲役十年ノ上ニ懲役終身ノ刑ヲ設ケ其犯罪持兇器強盜監守常人盜謀故殺放火及獄偽造實貨ノ除外罪死誡ル者一昧ニ寛宥シテ此刑ニ科ス

孫ノ者及親屬等モ無キ獨身ノ者ハ如何可仕哉〇懲治監ニ入ルノ例ニ依リ役囚ト正則ニテ置ク可シ  
 〇七年第六号場玉縣伺  
 士族犯罪除族被申付候者士族ノ親子トテリ其家ヲ續キ候儀不苦哉 伺ノ通儀相請ノ爲ノ餘族  
 〇七年第六十四号飾磨縣伺 四月二日  
 士族政通同居士族繁藏ハ私借官物ノ料ニ依リ禁錮二年半申付有之趣政通ヨリ歎願書 他者ノ親戚 差出情状無據次第ニ相聞候へ共禁錮中居可接候儀比例無之殊ニ他管ニ係リ如何可仕哉 伺ノ趣請實已ムヲ得サル儀ニ付移居差許シ候事  
 〇七年第六十九号愛知縣伺 一月十四日  
 平ヨリ平民ノ籍ニ復シ終身役ヲ賜フ者致益百以下ノ罪ヲ犯スニ華士族ハ除族收保ト有之民籍ニ在テ終身ノ保ヲ有スル者罪ヲ犯スノ正條無シ故ニ保ヲ收ノ尚得ヘキ本罪ヲ實斷シテ可然哉 伺ノ通  
 〇七年第七十七号筑摩縣伺 一月十五日  
 士族劫盜財ヲ得サル者ハ破廉耻甚テ以

ニ從ヒ 強弱ノ力ヲ量リ各業ヲ與ヘテ役使ス 毎日凡人雇工錢十分ノ一分ヲ給シ 其半ヲ官ニ領置シ徒限滿レハ放チテ 御里ニ還シ 生業ヲ營ムノ資ト爲ス 罪杖一百ヨリ過レハ杖ヲ出シ徒ニ入ル 徒ハ一年ニ起リ 三年ニ止ル 蓋シ勞苦使シ以テ惡ヲ改メ善ニ遷ラシム
流刑三
一等 役一年
二等 一年半
三等 二年
凡流ハ北海道ニ發遣シ罪ノ輕重ニ從ヒ 役ヲ三等ニ別チ 一年ニ始リ 二年ニ止ル 役滿レハ彼地ノ籍ニ編入シ使ニ

者及ヒ無力不能脱者監獄則ニ照シ分別シテ 役ニ服ス其雇工錢給與領置スルノ法モ亦獄則ニ從フ
第四條 凡懲役年月日限ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス
明治八年六月二十九日第百十三號御布告
改定律例第四條增加
凡上告シテ破毀ヲ得タル罪犯其懲役ノ年日數ハ原裁判言渡ノ日ヨリ起算シ 獄舎勾置若シハ便宜監護ノ日數モ懲役限内ニ算入ス 勾置監護ノ日數本罪ニ過ル者ハ直ニ放免ス其上告ノ不當ナル者ハ裁判言渡ヨリ上告ニ至ル迄ノ時間及ヒ勾置監護ノ日數ヲ限内ニ算入スルヲ得

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



論シ律ニ照シ收條除族可仕哉何之通  
 ○七年第七十九号東京府伺 一月廿日  
 士族除族ノ上表示及斬罪ノ者其家祿ハ  
 收シ族ハ子孫ニ襲ハシメ不苦哉ニ伺  
 通  
 ○七年第百十三号戸籍寮問合 六月十日  
 凡華士族罪ヲ犯シ云々族ハ子孫ニ襲シ  
 ム右ハ犯由ノ輕重ニ依テ襲族ヲ許サ  
 ルノ差別有之候哉警ハ謀逆ヲ企テ國家  
 ヲ擾乱セシ賊魁ト雖モ既ニ處刑相濟上  
 ハ窃盜等ヲ犯シ候者同一ニ採テ收メ本  
 犯一人ヲ除シ族ハ子孫ニ襲シ不苦候  
 哉 謀叛大逆ヲ犯ス者ハ律例ニ明文無  
 之候ハ共破廉耻甚ニ係ル者ト同ク收條  
 シテ本犯一人ヲ除シ族ハ子孫ニ襲カシ  
 ムルノ法ニ有之候  
 ○七年第百廿三号滋賀縣伺 七月廿日  
 士族破廉耻甚ノ罪ヲ犯シ除族ニ詠ル者  
 跡相續ノ子孫ナキ時ハ其妻ニ納續致サ  
 セ可然哉 但妻相續致ハ時夫ハ成人一  
 如何の事ハ夫ノ籍ニ入ルヲ以テ跡相續  
 セシムヘカラス但妻其家ノ實子ニシ  
 テ夫除族ノ節雖錄スル時ハ相續致サセ  
 不苦事

隨ヒ生業ヲ營マシム。  
 死刑二  
 絞  
 斬  
 凡絞ハ其首ヲ絞リ其命ヲ畢ルニ止メ  
 捕ホ其體ヲ全クス遺骸ハ親族請フ者  
 アレハ下付ス  
 凡斬ハ其首ヲ斬ル遺骸ハ親族請フ者  
 アレハ下付ス  
 絞斬ニ死ノ外仍ホ暴示ナル者アリ  
 其首ヲ斬リ刑場ニ暴示シ看守人ヲ  
 置キ犯由牌ニ罪狀ヲ書シ其側及ヒ  
 各所ニ立テ三日ヲ經テ除毀ス凡殘  
 ノ甚シキ者ヲ待ツ所以ナリ

ス。若シ檢事ノ上告ニ係レハ不當ナ  
 ル者ト雖モ仍ホ限内ニ算入ス。  
 同八年七月十四日司法省違律第十七號  
 本年第百十三號改定律例第四條增  
 加御布告ニ付上告セサル者懲役ノ  
 年日數計算ノ儀正院ハ相伺候處左  
 之通御朱書相成候條急得此旨相達候事  
 御指令 伺ノ趣改定律例第四條ニ  
 依リ刑名宣告ノ日ヨリ計算可致事  
 第五條 凡笞杖打決ヲ廢スト雖モ存  
 留養親及ヒ懲役人逃即時決スヘキ  
 等ハ條例ニ照シテ並ニ棒鎖ニ換フ  
 棒鎖一日 原笞一十至五十  
 二日 原杖六十至七十

華士族ノ妾已ニ違籍スル者ハ華士族ノ  
 奴女ヲ以テ取扱候哉但シ指上届時ト  
 ル者ハ本籍ヲ伺ノ通  
 ○七年第百六十二号岡山縣伺 九月十日  
 士族ニシテ已ニ家祿未滿而ケ未ク家  
 本金下ケ渡サハル中破廉耻甚ノ罪ヲ犯  
 ス者除族ハ勿論ノ儀ニ候ハ其家本金  
 ハ如何處分可仕哉 資本金ハ下渡ス可  
 シ  
 ○七年第百八十六号島根縣伺 十一月十日  
 令般登銅ヲ禁獄ニ改ラレ候ニ付御前第  
 十六号ヲ以テ御達ニ付左ノ席々相伺候  
 室内ニ締リ相付候儀ハ窓及戸障子等  
 重ニ鎖給シ監守ハ官廳ヨリ命シ候儀ニ  
 可有之哉官命ヲ以テ監守中付候儀ニ候  
 ハ給料等如何心得可然哉 一重ニ締  
 リ相付窓戸鎖給等雖漏ノ儀無之ニハ別  
 ニ監守人ヲ置クニ及ハス  
 要リニ出入等無之様致候儀ハ臨時本犯  
 罹病ノ節區々延キ候外人ハ勿論支族  
 タリトモ出入ヲ禁シ候儀ニ可有之哉 伺  
 伺之通  
 平素家法不修ニ至一同居他ニ禁獄スヘ  
 子別室無之且亦命ニシテ其外別室

明治十二年二月四日第一号布告  
 名例律五刑條例中左ノ一條創定候  
 條此旨布告候事  
 五刑條例  
 凡暴示ノ刑ヲ廢シ其罪暴示ニ詠ル  
 者ハ一體ニ斬ニ處ス

三日 八十至一百  
 第六條 凡所犯極テ輕ク罪懲役十日  
 ニ及ハサル者ハ止メ呵責シテ放免ス  
 第七條 凡暴示ハ犯由牌ニ罪狀ヲ書シ  
 堀及ヒ各所ニ掲示スル外斬絞ニ死セ亦  
 犯由牌ニ罪狀ヲ書シ通衢一個所ニ掲示ス  
 仍ホ暴示絞及ヒ懲役五年以上ニ處スル  
 者ハ並ニ罪狀ヲ紙牌ニ書シ三日間犯人本  
 籍ノ掲榜場ニ掲示ス  
 第八條 凡暴示ニ該ル者罪名已ニ定  
 リ奏請待報内ニ在テ死亡スレハ屍ヲ  
 刑セス止メ犯由牌ヲ立ツ  
 第九條 凡暴示ノ遺骸モ亦親屬請フ  
 者アレハ下付スルヲ聽ス

新律編領 ○名例律

改定律例 ○名例律































八六  
 一、如二處ノ過失致ノ收贖ハ他ノ收贖ト異  
 ナリ應ニ錢ヲ以テ被殺傷者給ス第  
 十五條ノ如シ禁錮銀額ニ應ス可ラス  
 ○七年第百四十一号石川縣伺  
 士族ニシテ過失致傷ヲ犯スニ例圖ニ照  
 シ收贖スヘキ所無様無カニシテ贖ヲ  
 不能者ハ如何可仕哉例第三十二條ニ  
 依テ處分ス可シ  
 ○七年第百八十五号大分縣伺 六条内第五  
 號罪收贖ノ申渡ヲ受テ未タ其贖ヲ完納  
 セスレテ逃亡セシモノハ如何可處哉例  
 違式輕重ニ問フ  
 ○七年第百八十七号島根縣伺 七条内第七  
 號金ハ宣告ノ日ヨリ五日内ニ完納ス若  
 シ無カニシテ贖ヲ能ハサル者ハ例ニ  
 照シテ延期スルコトヲ聽ストモ其延  
 期内納完スル能ハサル者ハ無人ト見  
 做レ實處斷可然哉例同ノ通  
 ○七年第百九十九号若松縣伺 四七条内第四  
 號逃亡ニ年以外復歸自首者アリ賤金六円  
 申付處無カニシテモ 但右等ノ時三  
 月ハ五割ヲ還却シ三四四五等ヲ以テ  
 四十六日ヲ越ハシテ三十五日ヲ以テ  
 致可例同ノ通但右日ノ端數ヲ除去シ殘  
 ル三十日ヲ算斷スヘシ

糾彈官吏犯罪  
 凡糾彈官吏犯罪ヲ犯ス者ハ其餘ノ官  
 吏ニ二等ヲ加フ私罪ヲ犯シ及ヒ有心  
 故造ニシテ罪ヲ得ル者ハ二等ヲ加フ公罪  
 ヲ犯シ及ヒ過誤失錯ハ常律ニ依ル  
 庶人犯罪不的決

第二十八條 凡後備兵等名氏軍籍在リ  
 ト雖現軍後服セサル者ハ仍本常人ト  
 同ク法司科斷シ訖テ本屬ノ軍官ニ  
 移告ス  
 糾彈官吏犯罪條例  
 第二十九條 凡糾彈官吏ト稱スルハ檢  
 事警保官吏ヲ謂フ其職罪ヲ犯ス者  
 ハ律照シ二等ヲ加フル除外私罪及  
 ヒ有心故造ノ罪ヲ犯ス者モ公罪ト同  
 ク常律ニ依ル  
 平民犯罪不實斷條例 庶人犯罪  
 不的決律

八七  
 ○七年第百六十六号愛知縣伺 八条内第三  
 號治監入ノ者數名破監ヲ圖リ已ニ脱監  
 ノ期ニ至リ懲役人ノ申報ニ因リ脱監ヲ  
 致サレルヲ得ル者ハ懲役人ノ逃走ヲ  
 報スルト同シ減等可致哉例有罪懲治  
 監入ノ者ハ例ノ通例第三十二條收贖金  
 ヲ給スルニ足ルヲ期トスルカ如キ者ハ  
 減等スルノ限ニ在ラス  
 ○七年第百二十三号大分縣伺 十ニ条内  
 例第四十九條凡懲役限内云々輕後ニ服  
 スト之アリ右輕後ニ拘服ノ日數ハ役通  
 スル日數ニ相立除去シ可然哉又ハ延期  
 内ノ輕後ハ除去ノ限ニ無之哉例賤金延  
 期限内輕後ニ拘服シテ赦免ス可シ  
 ○八年第十八号東京裁判所伺  
 指令懲役人一時瘋癲ヲ発シテ同ノ日傷  
 スル者過失傷候例ニ照シ收贖シム  
 へキ處無カニシテ贖ヲ能ハサルハ官  
 ニ領置スル役限ノ産錢額半ニ充テ  
 テ給手ス尙不足スルハハ懲役満期ノ  
 後例第三十二條ニ依リ處分スヘシ  
 ○八年第八十五号東京裁判所伺 十月寄  
 脫罪收贖等ニ處スル者ハ例第三十三條ニ  
 依レハ別ニ三日間ノ猶豫ヲ與フルニハ

凡庶人罪ヲ犯シ過誤失錯連累其他不  
 章ニ出テ事矜憫スヘシ情原諒スヘク  
 シテ的決シ難キ者ハ法ニ依リ賤罪ヲ  
 準ス

第三十條 凡平民罪ヲ犯シ賤罪スヘ  
 キ者無カニシテ賤ヲ能ハサル者  
 ハ律ニ依リ實斷スト雖モ死罪ハ一  
 等ヲ減シテ懲役ニ服ス  
 第三十一條 凡老小癡疾者罪ヲ犯シ  
 收贖ス可キ者無カニシテ賤ヲ能ハ  
 サル者懲役百日以下ハ折半シ一年以  
 上ハ五等ヲ減シテ並ニ懲役ニ服ス  
 第三十二條 凡過失殺傷ヲ犯シ收贖  
 スヘキ者無カニシテ賤ヲ能ハ  
 サレハ懲治監ニ入レ一等役因ト同  
 ク雇工錢ノ全數ヲ領置シ食費ヲ除  
 キ賤金ノ半ヲ殺傷セラルノ家ニ給  
 スルニ足ルヲ期ト為シ後ヲ免ス

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



不及事之候哉。犯罪收院ハ罪ニ當ル者ハ刑名宣告ノ日ヨリ二日ノ後其院金ヲ徴收スヘシ

○九年第五十号東京裁判所例 四月十五日

茲ニ收院ノ罪ハ宣告ヲ受ル者其院金ナキヲ以テ例ニ照シ延期ヲ與フルト由モハセテ可然哉。例ノ通

○九年第五十号東京裁判所例 四月十五日

以內ニ納完スト由モ今三日間未行セザル公法ナルヲ以テ其三日ヲ除キ外五日ヲ以テ納完ノ期トナシ以下三十日ヨリ八十日ニ至ル迄期モ右三日ノ限内ニ并ハセテ可然哉。例ノ通

○九年第五十号東京裁判所例 四月十五日

以內ニ納完スト由モ今三日間未行セザル公法ナルヲ以テ其三日ヲ除キ外五日ヲ以テ納完ノ期トナシ以下三十日ヨリ八十日ニ至ル迄期モ右三日ノ限内ニ并ハセテ可然哉。例ノ通

○九年第五十号東京裁判所例 四月十五日

以內ニ納完スト由モ今三日間未行セザル公法ナルヲ以テ其三日ヲ除キ外五日ヲ以テ納完ノ期トナシ以下三十日ヨリ八十日ニ至ル迄期モ右三日ノ限内ニ并ハセテ可然哉。例ノ通

凡二人以上共ニ罪ヲ犯スニ隨從者ハ一等ヲ減シ人ノ告ント欲スルト知リ自首スレハ又一等ヲ減シ通シテ二等ヲ減ス若シ判官人ヲ罪ニ故出シ故テ還タ獲レハ止メテ論シ五等ヲ減シ判官ニ等ヲ減シ放テ還タ獲レハ又一等ヲ減シ通シテ七等ヲ減ス又人ヲ罪ニ失入スル者判官ハ二等ヲ減シ若シ未タ決放セサルハ又一等ヲ減シ通シテ四等ヲ減ス次官ハ五等ヲ減シ長官ハ六等ヲ減シ主典ハ七等ヲ減スル等並ニ累減スルコトヲ得
---

第三十三條 凡曉金ハ宣告ノ日ヨリ五日以內ニ納完ス若シ無カニシテ限内曉フコト能ハサル者ハ例ニ照シテ延期スルコトヲ聽ス
曉後五十日以下限三十日
懲役百日以下 四十日
懲役三年以下 五十日
懲役十年以下 六十日
懲役終身 七十日
死刑 八十日
第三十四條 凡曉罪收院スヘキ者無カニシテ曉フコト能ハス親屬代テ曉フコト願フ者アレハ聽ス

逃ニ納リタルハ因テ実斷ニ換フルノ宣告ヲ受ケ既ニ後ニ就テ親族ノ者ヨリ代曉セシテ請フアリ右ハ本犯曉フ能ハサル旨供出スルヲ以テ已ニ実斷ニ換ル者ニ付假令親族ノ代價ヲ請フ切ナリト由モ再聽曉セサル後ニ可有之歟或ハ其本罪收院ノ罪ニ當ル者ニテ唯當時無カナルニ依リ實斷ニ換ル者ナルヲ以テ再ニ聽許シ已ニ後スル日數ヲ除キ剩ル日數ヲ納曉セシノ然ルハキ歟再ニ聽曉スヘキ儀ニ候ハ其罪罪ヲ犯シ自首スルヲ以テ全免ヲ与フヘキ者無カニシテ罪數スヘカラサルニ付律ニ照シ減等シテ處決スル者假令ハ懲役五年ノ内二年ヲ經テ親族代曉ヲ請フ者アル時モ同様聽許シ可然哉。例ニ換ハ宣

○九年第五十号東京裁判所例 四月十五日

以內ニ納完スト由モ今三日間未行セザル公法ナルヲ以テ其三日ヲ除キ外五日ヲ以テ納完ノ期トナシ以下三十日ヨリ八十日ニ至ル迄期モ右三日ノ限内ニ并ハセテ可然哉。例ノ通

○九年第五十号東京裁判所例 四月十五日

以內ニ納完スト由モ今三日間未行セザル公法ナルヲ以テ其三日ヲ除キ外五日ヲ以テ納完ノ期トナシ以下三十日ヨリ八十日ニ至ル迄期モ右三日ノ限内ニ并ハセテ可然哉。例ノ通

○九年第五十号東京裁判所例 四月十五日

以內ニ納完スト由モ今三日間未行セザル公法ナルヲ以テ其三日ヲ除キ外五日ヲ以テ納完ノ期トナシ以下三十日ヨリ八十日ニ至ル迄期モ右三日ノ限内ニ并ハセテ可然哉。例ノ通

凡無官時罪ヲ犯シ有官後事發覺スル
無官犯罪
減スル等並ニ累減スルコトヲ得

新律綱領 ○名例律
改定律例 ○名例律







婦女ニシテ不孝者等ノ正犯ヲ除クノ  
 外例收贖ヲ聽ス者ト雖モ一體ニ喚問ス  
 ハキハ當然ノ處動モスレバ陋巷僻郷  
 ノ婦女等喚問ノ何事タルヲ辨ヘス得給  
 ノ餘リ病ニ託シテ即時喚問ニ應ゼズ  
 或ハ真実疾病ニ罹リ為メニ滞獄ヲ釀  
 ス一至ル者往々之レアリ將又不幸ニ  
 シテ係累トナルモ之レヲ致望ノ遠キ  
 ヲリ喚問スル等情狀頗ル憫諒ス可キ  
 者アリ故ニ清律婦人犯罪條例ヲ援テ  
 シ以表百目以下ノ刑名ニシテ例收贖  
 ヲ聽ス者又ハ連累ニ係リ代人ニシテ準  
 ニ書ナキ者ハ事情ヲ量リ父兄弟近親  
 ヲシテ代審ヲ行ハセ可然或ハ少産疾  
 者ハ少産疾ニ罹リ可憐故ニ本例收贖之通  
 ハ年第七十二号迄  
 實科例凡合ス可シ  
 ⑧八年第四十六号師曆條同 第一條  
 婦女ニシテ賭博夫火等ノ罪ヲ犯ス者  
 ハ例圖ニ照シ收贖スルハ論ヲ待タズ  
 ト雖モ若シ七十歳以上十五歳以下或  
 ハ廢疾ノ婦人ニテ右賭博夫火等ノ罪  
 ヲ犯ス者壯年ノ婦女ト同シ收贖ス  
 ルハ推測稍不平ニ似タリト雖モ別ニ  
 減等ノ例モ不見トハ右様ノ收贖罪ハ

同僚犯公罪	同僚犯公罪 二條
公事失錯	同改正 一條
共犯罪分首從	公事失錯 一條
犯罪事發逃亡	共犯罪分首從 二條
親屬相為容隱	親屬相為容隱 二條
本條別有罪名	加減罪例 三條
加減罪例	再犯加等罪例 二條
再犯加等罪例	同條例 二條
稱同罪	稱同罪 三條
稱監臨主守	稱日者以二十四時 四條
稱日者以十二時	

老小廢疾壯年ノ差別無之表ト相心得可  
 然哉  
 老小婦女ニシテ廢疾ナル者モ右賭博  
 夫火等ノ罪ヲ犯ス亦例圖ニ照シ一槩  
 ニ收贖可申付哉⑧通條共伺之通  
 ⑧八年第六十四号佐賀裁判例  
 婦女ニシテ右傷致傷致入モノモ右收  
 贖ヲ聽シ可申哉又右傷致傷ノ如キ人命  
 ノ因テ係ル所ナルハ收贖ニテハ罪ヲ減  
 フニ足ラサルニ似タリ收贖實決ノ境如  
 何但シ其決ニ依リテ之ヲ減ラシメテ  
 何難刀案刀傷ニ係リ無之或ハ婦女ノ  
 歐ハ右傷ト雖モ收贖ヲ聽ス但右傷ノ  
 ナン本例  
 ⑧八年第七十二号滋賀縣同 第一條  
 ⑧愛知縣同面ノ如キ本把又ハ連累ニ係  
 リ疾病等ニテ代人ニテ七事ニ控テ害無  
 二者ハ其情狀ニ依リ不犯具狀ノ文ヲ註  
 名ノ傍ラニ代案ノ記載シ代人ノ押印  
 ニテ解決スルヲ聽入但書不文ノ如ク  
 特保ト顯モ  
 ⑧八年第八十五号東京裁判例  
 婦女官ニ在リ過誤失錯ノ罪ヲ犯ス者例  
 四十七條老小及ヒ廢疾者官ニ在リ罪ヲ  
 犯スノ權衡ニ照依シ至當トハ存候ヘ

稱兩者以金兩	稱兩者以金兩 一條
稱等內人	稱等內人 一條
稱奴婢雇人	稱雇人 二條
僧尼於受業師	斷罪無正條 一條
斷罪無正條	斷罪無正條 一條
斷罪依新頒律	同條例 一條
斷罪依新頒律	斷罪依新頒律 一條

新律綱領 ○目錄

改定律令 ○目錄















候ハ、假令ハ役因瘋癲ニ依テ親戚ニ保管セシメ置ク者今日ニ在テ全愈セシエテハ其疾病ノ前日迄ノ日數ヲ除キ餘罪ヲ收贖シ直ニ放免致ス儀ト心得可然哉何之通

○指令録第八号東京裁判所同ニケ條  
懲役限内癡疾ニ至ル者收贖日數計算ノ儀曾テ廣島縣七十七号京都裁判所七十八号同ヲ援引シ云々相伺候處七十九号本年四月四日錦帯橋ヨリ懲役一年ノ罪犯病ニ罹リ親族ヘ責付日限云々右ハ抵觸スル歟ニ覺候右ハ當廳ホノ御指令ハ改正シ更ニ錦帯橋御指令ノ通云々心得可然哉何之通  
癡疾ト確定スル者收贖ノ法ハ京都裁判所廣島縣及ヒ其裁判所ヘ指令ノ通其責付ノ後癡疾ト確定スル者ノ如キ收贖ノ法ハ錦帯橋ヘ指令ノ通心得可シ  
前文ノ如御改正相成ル上ハ病監ニアリ休役スル者ハ例第五十條ノ休役日數ニ照準シ限内ニ算入シ扣除スル儀ト心得可然哉何之通  
改定律例第五十條ハ再役ニ服スル者ノ為メ設タル法ナレハ懲役限内癡疾トナリ收贖スル者ニ用ユルコト不得

老小癡疾收贖

凡年七十以上十五以下及ヒ癡疾者死罪ヲ除クノ外流罪以下ヲ犯ス者ハ收贖ス  
八十以上十歳以下及ヒ篤疾者人ヲ殺シ死罪ニ該ル者ハ讞擬奏聞シテ上裁ヲ請フ若シ盜罪及ヒ人ヲ傷スル者モ亦收贖スルコトヲ準ス其餘ノ罪ハ皆論スルコト勿レ  
九十以上七歳以下ハ死罪ヲ犯スト雖モ刑ヲ加ヘス若シ敎令スル者アレバ其敎令者ヲ罪ニ坐シ贖ノ價フヘキ者アレハ其得ル者ヲシテ償ハシム

老小癡疾收贖條例

第四十五條 凡人ノ目ヲ瞎スルハ人ヲ癡疾ニ致ス律ニ依ルト雖モ二目ノ人罪ヲ犯セハ癡疾ヲ以テ收贖スルコトヲ得ス人ノ兩目ヲ瞎スルハ人ヲ篤疾ニ致ス律ニ依ルト雖モ盲人罪ヲ犯セハ懲役ハ收贖シテ死罪ハ收贖スルコトヲ聽サス  
第四十六條 凡盲人及ヒ癡疾者盜罪ノ罪ヲ犯ス者ハ律例ニ照シテ收贖スルコト雖モ其強盜強姦ヲ犯ス者ハ實斷シテ收贖スルコトヲ聽サス  
第四十七條 凡老小及ヒ癡疾者官ニ在リ罪ヲ犯スニ公罪ハ官吏贖罪律例ニ依リ私罪ハ官吏犯私罪律例ニ依リ其破

入役癡病監ニ在リ休役スル日數ハ收贖スル限ニアラス  
○指令録第十四号和歌山縣同ニケ條  
例第五十條ニ懲役一年以上ノ罪犯病ニ罹リ云々ト譬ハ懲役一年半ノ罪犯病ニ罹リ休役スル時限内ニ算入スル半年ノ日數明文無之候得共五十日ノ一半廿五日ニシテ通計七十五日以内ハ限内ニ算入致シ可然哉何之通

○指令録第一号鶴岡裁判所同ニケ條  
九号和歌山縣ヨリ盜匪金或坐贓財ホテ以テ租ニ充テ官ニ收シ者本犯資力之無キ時ハ云々事主ニ給付スルニ不及ト熟考スル律ニ正罪官同手ニ在ル者ハ追シテ事主ニ給セザル明支ヲ揭ケサル上ハ公租ニ充ルモ現在スレモ追シテ事主ニ給ニ似タリ殊ニ律例第五十八條等ニ比較致シ候テモ稍推斷不

凡罪ヲ犯ズ時未タ老疾ナラスト雖モ專殺スル時老疾ナル者ハ老疾ニ依テ	犯罪時未老疾
----------------------------------	--------

廉耻甚ニ係ル者懲役百日以下ハ除族ニ止メ一年以上ハ仍ホ律ニ依リ收贖セシム	第四十八條 凡老小及ヒ癡疾者懲役終身以下ヲ犯ス者例ニ照シテ收贖スルノ後再ヒ罪ヲ犯ス者ハ仍ホ例ニ照シテ收贖スルコトヲ聽ス若シ盜罪賭博等加等ス可キ再犯ニ係ル者ハ但加等ノ罪ヲ宥メ本罪ヲ突斷シテ再ヒ收贖スルコトヲ聽サス三犯以上ハ凡人再犯以上ノ列ニ照シテ加等ス	犯罪時未老疾條例
第四十九條 凡懲役限内老疾收贖者孤獨貧困ニシ即時贖了コト能ハル者ハ贖	改定律令	○名例律

新律綱領 ○名例律

改定律令 ○名例律















一體ニト云フ後ナルカ又ハ強盜賭博  
或ハ遠令遠式等ノ諸罪ヲ指シ一體ト云  
後ナル哉  
○同六十八條 華士族罪ヲ犯シ云々破廉  
耻甚ヲ以論セストアリ右ハ人ノ告ント  
欲スルヲ知テ自首スル者ニ限候哉又  
ハ六十四條ノ如キ罪ヲ犯シ罪微スヘ  
カラズシテ二等減ノ者並ニ二百四十九  
條寶貨偽造ノ情ヲ知テ云々ノ二等減ノ  
者モ同六十八條ノ權衡ニ可依ヤ  
○若右六十七條ノ一體ハ諸罪ヲ指シ云  
フニシテ六十八條ノ罪減等セシメテ  
罰利ニ處ストアルハ人ノ告ント欲スル  
者ニ限トノコナレハ令後ニ士族ニシテ  
寶貨偽造ノ情ヲ知テ既ニ行使シ過リ悔  
自首スル者アリ第百四十九條寶貨偽  
造ノ情ヲ知テ買使スルハ懲役終身若過  
ヲ悔テ自首スル者既ニ行使スルハ二等  
ヲ減スルアルニ依リ懲役七年ナリ假令  
減等ストモ破廉耻ハ免カレサルニ依  
リ減等ノ儘處断スル片ハ實断ノ七年當  
ヲ得テリトモ六十條ニ依レハ自首ス  
ルニ依リ罰利ニ處シ禁獄七年ナリ六十  
八條ノ權衡ニ依リハ懲役終身ノ何レ

ヲ減ス	若シ自首ノ賊微スベカラサルハ二等	ヲ減ス
-----	------------------	-----

ニ二等ヲ減シテ罪ヲ科ス其餘ノ賊  
罪モ亦之ニ準ス  
第六十五條 凡人ヲ罪ニ誣告シテ自  
首スル者ハ已斷未斷ヲ分テ未々受  
斷ヲ經サルハ仍ホ首免ヲ聽シ已ニ  
受斷ヲ經ルハ告誣ノ本罪ヲ科ス  
第六十六條 凡罪ヲ首シ減免ヲ經ル  
ノ後再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スル  
ヲ聽サス若シ前後犯罪各別ナル  
者ハ此限ニ在ラス  
第六十七條 凡華士族罪ヲ犯シ自首  
スル者破廉耻ニ係ル下雖モ本條  
自首ヲ聽スヘキ者ハ一體ニ罪ヲ免  
シ除族スルノ限ニ在ラス

ニ依リ處断シ可然哉  
○改定律例第六十  
七條ハ自首ヲ聽スベキ犯罪ナレハ破廉  
耻甚ニ係ルトモ都テ罪ヲ免スルノ義  
ナリ又全免セストモ自首スルヲ以テ  
減等スベキ罪ナレハ人ノ告ントスルヲ  
知テ首スルニ限ラス第六十八條ニ依リ  
減等セシメテ罰利ニ處ス故ニ偽造寶貨  
ノ情ヲ知テ行使シ後自首スル者ハ第六  
十八條ニ照準シ禁獄終身ニ處断ス可シ  
○九年第四十号 支那縣同 三月廿二日  
常人官財物七百圓ヲ盜ミ四百圓ヲ盜  
ムト自首スル者アリ本律常人盜三百圓  
以上絞罪ニ該ル該犯ノ如キハ罪ニ不該  
アリトモ罪ニ於テ盡ナル無キ者ノ  
如シ然ラハ不盡ノ罪ヲ以テ罪ニ坐シ絞  
ニ入ル可ラス如此犯ハ全罪ヲ追徴シ得  
ルモ尚ホ不應為重ニ問シ實断ス可キ哉  
○罪已盡ルハ何レ通トモ罪ノ不可徴  
者ハ重キニ從テ論スベシ  
○九年第四十八号 支那縣同 四月廿六日  
九年廿五号 八年百号 支那縣同 四月廿八日  
指押ア相伺候處放火ノ罪ハ公共益ヲ害スル  
極テ大ニシテ尋常賊盜ノ比ニアラス即チ自首  
ヲ聽ナル所以ナリ 智指合アリ右候ヘハ其

新律綱領	○名例律
------	------

第六十八條 凡華士族罪ヲ犯シ人告  
シテ欲スルヲ知テ自首スル者本條自首  
聽ス可キ者ハ罪減等セシメテ罰利ニ處  
シ破廉耻甚ヲ以テ論セス  
第六十九條 凡知人欲告而首ト稱スルハ  
名ヲ指テ官ニ告ケ事已ニ發セント分  
ルヲ知テ自首スル者ヲ謂フ真ニ罪ヲ  
悔心ナク事發シ罪ヲ畏ルニ因リ首出  
ス故ニ本罪ニ二等ヲ減入聞捕而首ト  
稱スルハ官司人ヲ差シ已ニ捕獲セント  
欲スルヲ偵知シテ自首スル者ヲ謂フ  
事機緊急ニムヲ得サルニ出テ悔懼ノ  
心尤モ薄シ故ニ本罪ニ二等減入越獄而  
首ト稱スルハ已ニ囚禁セラレテ越獄

新律綱領

○名例律

改定律例

○名例律



○九年第五十九号 陸奥裁判所 五月十日  
 八二次ノ盗 被告人 陸奥 田村 為三 内 常  
 人 盗ノ一次ヲ首シニ免罪ノ處分ヲ經  
 然ル後 曾テ 窃盗ノ罪 發覺スル  
 ル片ハ 其罪加テ可キナキヲ以テ止メ  
 追シテ 不問ニ置可然哉 如斯ハ 其不  
 ナルヲ以テ 更ニ 窃盗罪ヲ 全科シ 可然  
 ○窃盗スル 窃盗ハ 不實ナルヲ以テ 窃盗  
 罪ヲ科ス可シ  
 ○同上 窃盗 金九圓ヲ 奪田ト 首スレハ  
 仍ホ 八圓ノ罪ニ 坐シ 又 六圓ト 三圓ト  
 ト 首スレハ 仍ホ 三圓ト 罪ニ 坐シ 可然  
 哉 九圓ト 奪田ト 首シ 六圓ト 三圓ト  
 ト 首スルノ 類ハ 罪ノ 不盡アリト 虽モ 罪  
 已ニ 盡ルヲ以テ 其罪ニ 坐セシ 罪ノ 微ス  
 可カラサル者ハ 此限ニ 在ラズ  
 ○同上 譬ハ 窃盗 罪 百圓ヲ 六拾圓ト 首  
 シ 罪 微ス 可カラサルヲ以テ 本罪ニ 二等ヲ  
 減シ 後 復 百圓ノ 處分ヲ 經 然ル後 曾  
 藏スル 四拾圓ト 罪 發覺スル 片ハ 仍ホ 四  
 拾圓ト 罪ニ 坐ハ 勿論ニ 可有之 果シテ  
 然ハ 若シ 窃盗 罪 拾圓ト 五圓ト 首シ 罪  
 微ス 可カラサルヲ以テ 本罪ニ 二等ヲ 減シ  
 後 復 百圓ノ 處分ヲ 經 然ル後 曾テ 窃盗スル 五

二罪俱發以重論  
 凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者  
 以テ論ス 等キハ二從テ科ス 若シ二罪先キ  
 ニ發シ 已ニ論決ヲ經テ 餘罪後ニ發シ  
 輕シ 若シ 等キハ 論スルヲ勿レ 重キハ 更  
 ニ論テ 前罪ニ 通計シ 後數ニ 充テ 賊罪ニ  
 係ル者ハ 重賊ヲ以テ 輕賊ニ 係ル者ニ 從  
 テ科ス 若シ 併シテ 仍ホ 輕ク 若シ 等キハ  
 一ノ重ニ 從テ科ス 輕賊ヲ以テ 重賊ニ 併ス  
 ルヲ得 假令 枉法 賊 百兩ヲ 犯シ 又 竊  
 盜 二百兩ヲ 犯セハ 枉法 賊ヲ以テ 竊盜ニ 併

逃走シ 自首スル者ヲ 謂テ 止ク 越獄  
 ノ 加等ス キ罪ヲ 免ノ 本罪ハ 減スル  
 ヲ 聽サス  
 二罪俱發以重論條例  
 第七十條 凡罪ヲ 犯シ 實斷 曉罪 並發  
 スルニ 罪 各等キ者ハ 一ノ 實斷ヲ以  
 テ 論ス 若シ 賤罪 實斷 ヨリ 重キ者ハ  
 重キニ 從ヒ 賤罪ニ 處ス 士族ノ 破廉  
 耻甚チ 犯ス者ハ 此例ヲ 用ロス  
 第七十一條 凡二罪以上俱ニ發覺ス  
 レハ一ノ 重キ者ヲ以テ 論シ 各等キ  
 ハ一ニ 從テ科スト 雖モ 其 賊物ノ 追  
 徴シ 官ニ 入レ 主ニ 給シ 若シ 棄毀 帶  
 物ノ 賠償ス 可キ 等ハ 各本法ヲ 盡ス

○九年第五十九号 陸奥裁判所 五月十日  
 八二次ノ盗 被告人 陸奥 田村 為三 内 常  
 人 盗ノ一次ヲ首シニ免罪ノ處分ヲ經  
 然ル後 曾テ 窃盗ノ罪 發覺スル  
 ル片ハ 其罪加テ可キナキヲ以テ止メ  
 追シテ 不問ニ置可然哉 如斯ハ 其不  
 ナルヲ以テ 更ニ 窃盗罪ヲ 全科シ 可然  
 ○窃盗スル 窃盗ハ 不實ナルヲ以テ 窃盗  
 罪ヲ科ス可シ  
 ○同上 窃盗 金九圓ヲ 奪田ト 首スレハ  
 仍ホ 八圓ノ罪ニ 坐シ 又 六圓ト 三圓ト  
 ト 首スレハ 仍ホ 三圓ト 罪ニ 坐シ 可然  
 哉 九圓ト 奪田ト 首シ 六圓ト 三圓ト  
 ト 首スルノ 類ハ 罪ノ 不盡アリト 虽モ 罪  
 已ニ 盡ルヲ以テ 其罪ニ 坐セシ 罪ノ 微ス  
 可カラサル者ハ 此限ニ 在ラズ  
 ○同上 譬ハ 窃盗 罪 百圓ヲ 六拾圓ト 首  
 シ 罪 微ス 可カラサルヲ以テ 本罪ニ 二等ヲ  
 減シ 後 復 百圓ノ 處分ヲ 經 然ル後 曾  
 藏スル 四拾圓ト 罪 發覺スル 片ハ 仍ホ 四  
 拾圓ト 罪ニ 坐ハ 勿論ニ 可有之 果シテ  
 然ハ 若シ 窃盗 罪 拾圓ト 五圓ト 首シ 罪  
 微ス 可カラサルヲ以テ 本罪ニ 二等ヲ 減シ  
 後 復 百圓ノ 處分ヲ 經 然ル後 曾テ 窃盗スル 五

七。三百兩絞ニ處ス。監守盜七十兩ヲ犯  
 レ。又不枉法一十兩ヲ犯セハ。罪仍ホ輕  
 レ。一ノ監守盜七十兩ヲ以テ科ス。常人  
 盜八十兩ヲ犯シ。又竊盜一十兩ヲ犯セ  
 ハ。罪等シ。一ノ常人盜八十兩ニ從テ科  
 スルノ類。

第七十二條 凡二次以上盜ヲ爲レ 首  
 從ノ 賊 並發スル者ハ 首從ノ 賊ヲ  
 併セテ 罪 一等ヲ 減ス 若シ 併セテ 首  
 賊ノ 本罪ト 仍ホ 等キ者ハ 更ニ 減セ  
 ス 假令ハ 從賊 五十圓ナルニ 首賊 四  
 十圓ナレバ 之ヲ 併セテ 九十圓懲役  
 三年 一等ヲ 減シ 二年半ヲ 科ス 若シ  
 首賊 百二十圓 懲役 十年ニ 該ル者 從  
 賊ニ 併セテ 罪 仍ホ 等キ者ハ 減セス  
 レテ 全科ス  
 第七十三條 凡二次盜ヲ爲レ 一次先  
 キニ 發シ 已ニ 論決ヲ 經テ 一次後ニ  
 發シ 及ヒ 先キニ 審結シテ 賊ヲ 盡サ  
 ル者 論決ノ 後 發覺スレハ 俱ニ 後

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



二 四ノ罪發覺スルハ仍ホ五ノ罪ニ可  
坐ヤ得タ如此ハ二罪俱ニ發覺スルハ本  
罪六十ヨリ已ニ決スル四十日ヲ除去  
シ到ル二十日ヲ科シ可然哉○本罪發覺  
六十日ヨリ四十日ヲ除去シ二十日  
ヲ科ス可シ

○九年癸卯六月二十日  
律ニ正法ナキ輕微(假令ハ重送)其外  
ノ愚民布告布達ヲ知ラズシテ一時  
ニ違フト云モ言ナキ者ハ其自首ニ係  
ル警察限リ止メテ懲戒セシメ放逐不  
若哉○輕微ノ罪ト云法ニ照レテ自首  
英ヲ可ト者ハ裁判ノ上放免ニハレ其法  
律ニ觸レズ無罪ト見込ム者ハ同ノ通

○指令録第百六號  
○指令録第百六號水戸裁判所  
九年度會縣御指今ニ依レハ若シ共ニ  
盜罪ヲ犯シテ不分明者悔悟自首スレハ  
罪ヲ追セズ直ニ全免ヲ與フルハ律面  
然ハ律面過テ悔ヒ出首スト云ハ氏損  
ヲ完償スルノ後初テ全免ヲ與ヘ完償  
ル能ハナル者ハ本罪ニ等テ減シ完償  
ルト否ニ依リ免不免ヲ論スルノ意ト  
旨スル哉

乙丙ノ黨類ナルト甲ノ供状ニ罹レハ甲  
ト同シ糾治可致哉○同ノ通  
○指令録第百六號水戸裁判所  
九年度會縣御指今ニ依レハ若シ共ニ  
盜罪ヲ犯シテ不分明者悔悟自首スレハ  
罪ヲ追セズ直ニ全免ヲ與フルハ律面  
然ハ律面過テ悔ヒ出首スト云ハ氏損  
ヲ完償スルノ後初テ全免ヲ與ヘ完償  
ル能ハナル者ハ本罪ニ等テ減シ完償  
ルト否ニ依リ免不免ヲ論スルノ意ト  
旨スル哉

凡罪ヲ犯シ共ニ逃亡スルニ其輕罪ノ  
犯罪共逃

發ノ賊ヲ以テ前職ニ係ル罪加フ可  
キ無ケレハ論トス若シ併セテ重キ  
者ハ更ニ加ヘテ全科ス  
第七十四條 凡罪ヲ犯シ實斷收贓並  
發スル者ハ收贓折減法ニ照シテ重  
ニ從ヒ實斷ニ處ス假令ハ實斷ノ  
懲後十日ヲ犯シ又收贓ノ十年ヲ犯  
セハ十年ヨリ五等ヲ減シテ懲後二  
年實斷實斷五十日ヲ犯シ又收贓ノ  
百日ヲ犯セハ百日ヲ折半シテ五十  
日罪仍ホ等シ實斷ノ五十日ニ處ス  
ルノ類  
第七十五條 凡華士族破蕪耻甚ノ懲  
後百日以下ヲ犯シ又閏刑ノ禁錮

囚能ク重罪ノ囚ヲ捕獲シテ首告シ及  
ヒ罪相等キ者能ク同逃一半以上ヲ捕  
獲シテ首告スレハ全ク其罪ヲ免ス人  
ヲ損傷シ及ヒ姦スル者ハ免サス  
其人ニ因リ連累シテ罪ニ致レ正犯罪  
人自死スル者連累人ハ本罪ニ二等ヲ  
減スルヲ聽ス若シ罪人自首告シ及ヒ  
恩赦ニ遇テ原免セラルレハ連累人モ  
亦原免ス減罪スレハ連累人モ亦減罪  
スルヲ聽ス  
同僚犯公罪

同僚犯公罪條例  
第七十六條 凡府縣官吏ハ知事及ヒ  
令ヲ長官ト為シ奉事ヲ次官ト為シ  
典事ヲ判官ト為シ屬以下ヲ主典ト

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



定ニ二等ヲ減シ今賤ヲキハ直ニ全免ス  
○指令録第廿七号福壽裁判所  
受ニ盜難人アリ數月前衣類二品ヲ盜取  
ラレホキ車由ヲ官ニ届出ナル處盜犯ア  
リ現ニ其衣類一品ニ着目スルヲ見受ケ  
即衣類ノ出所ヲ結問ス盜犯罪ヲ敲フニ  
術ナシ車夫ヲ自狀シ其衣類ヲ還レ私和  
ヲ受ル者アリ此盜犯ヲ處スル疑義ヲ  
生何トナレハ八年四月若松縣同云々本律  
ニ依リ處斷可然哉ト有之ニ御指令同ノ  
趣ト相見ヘヌト官崎縣同奉三條ニ  
駐官首律ニ照レ區處シ車主ハ云々ト御  
指令相見ヘ石高縣同トモ車夫同職ノ義  
ト存候得共ハ本罪ヲ的科セラレハ  
自首律ニ照レ感免ヲ與ヘラル御指令兩  
岐ニ相聞候感不少水素ノ如キ律例明文  
無之者ニ付敢テ正トシ相心得可然哉  
○註問ヲ受テテ自狀スルハ自首ニテ  
ス律ノ如ク處分ス可レ  
○九年第四号和歌山縣同 一月十四日  
當縣下上田井村赤井七女登美七十年  
以上ニレテ遺胎術ノ罪ヲ以テ本年七  
月七日十月十日兩度處後百日ノ收賚ニ  
處斷ス茲所十月十日處斷スル罪ハ全ノ

ヲ以テ首ト為ス假令主典檢點シテ失  
アレハ即チ主典ヲ以テ首ト為レ判官第  
二從ト為レ次官ヲ第三從ト為レ長官ヲ第  
四從ト為ス若レ判官事ヲ断レテ失アレハ  
判官ヲ以テ首ト為レ次官ヲ第二從ト為  
レ長官ヲ第三從ト為レ主典ヲ第四從  
ト為レ各一等ヲ遞減ス原設四等官ノ内  
缺員アルモ亦四等ニ依リ遞減レテ罪ヲ科  
ス原設ノ官吏若レ四等ナキ者ハ止テ  
現設ノ官買ニ依テ遞減ス  
若レ同僚官一人私ヲ挾メ故サニ人ヲ罪  
ニ出入スル者ハ故出入人罪律ニ依テ論レ  
其餘文案ニ連署スト由モ情ヲ知ラサル者  
ハ止失出入人罪律ニ依テ論レ上ノ遞減

爲ス其公罪ヲ犯ス者ハ此例ニ依テ  
遞減シテ罪ヲ科ス  
同六年十二月廿八日第四百三十四号  
御布告  
改定律例第七十六條改正  
凡府縣官吏ハ知事及ヒ令ヲ長官ト爲  
レ奉事ヲ判官ト爲レ屬ヲ主典トナシ  
其公罪ヲ犯ス者ハ此例ニ依リ遞減  
レテ罪ヲ科ス  
第七十七條 凡主典罪囚口供結案ヲ  
具題シ判官律ニ依テ刑名ヲ擬斷スルニ  
刑名供ト差錯セスト由モ覆審ノ  
罪ノ當ラサルヲ檢挙スルハ刑名錯  
ト供誤リ由ラ以テ罪但所由主典ヲ坐

七月七日處斷スル以前ノ犯ナル丁發給  
ス右八十日十日處斷スル時ニ罪俱發律  
ニ照レシテ罪後ニ發シテ幸シキニ以テ  
其罪ヲ論セス然ルヘキヲ十月十日裁  
官吏ノ審判スル時罪因前罪ヲ包藏ス  
ルヲ以テ故サテニ處斷ヲ受ク若シニテ  
固ヨリ裁官吏ノ錯誤ト謂フヘカラス  
果レテ如此者ハ更ニ改正レテ贖金ヲ還  
付スヘキ子源ト罪囚ノ前罪ヲ包藏スル  
ヨリ起ルヲ以テ別段改正スルニ及ハス  
○然哉○史ニ改正レテ贖金ヲ還付スヘ  
シ然レトハ更ニ何處出ス  
○九年第一八号首發縣同 二月十八日  
八年第一八号同書ニ發給律並新律條  
御領不有之云々同ノ趣ト御指令有之右  
ハ發給律ハ同律中新律條例ハ同條例中  
ノ二罪俱ニ發免レ若ハ一罪先ニ發レ已  
ニ論決テ經テ餘罪後ニ發ル者ニ可限設  
律ノ律例ニ據リ等ノ語意ヲ讀味スレハ  
同律同條例中ニ限リ非ナルニ似タル者  
リ云々○當首ヨリ同ノ御指令ハ發給律  
新律條例中ノ二罪以上ヨリ形律ト  
評語律新律條例ノ罪ト並發スルハ各別  
ニ處分スヘシ

法ニ照レテ之ヲ科ス  
公事失錯  
凡官夫公事ヲ失錯シ改正ス可キ事ニ  
テ未タ發露サルノ時自ラ覺察シ者ハ  
自首ト同ク其罪ヲ免ス自ラ覺察セスト雖  
モ其長官以下主典以上文案ニ同署シ  
者又自ラ覺察スレ餘人ハ皆罪ヲ免ス  
其罪ヲ断シ入ルニ失錯レ已ニ處決スル  
者ハ自ラ檢舉スト由モ仍ホ失出入人罪律ニ  
依テ之ヲ科シ此律ヲ用ス其人ノ罪ニ失  
出スルハ已ニ決放ス雖モ自ラ檢舉  
シテ貼斷スルヲ得ル者ハ其失出入罪ヲ  
免ス若シ檢舉ス雖モ貼斷スルヲ得サ  
ル者ハ仍ホ失出入人罪律ニ依テ之ヲ科ス

判官ハ公罪遞減法ヲ用ヒ人  
公事失錯  
第七十八條 凡人ヲ罪ニ失出ハル者  
ハ已ニ決放スト雖モ貼斷スル律ヲ  
改メ貼斷檢舉スト雖モ貼斷スル  
ヲ得ヒス仍ホ失出入人罪律ニ依テ之  
ヲ科ス

新律綱領 ○各例律

改定律例 ○各例律



六 ○九年第五十六号 飾磨縣 五月四日

○小田縣ノ二九号 指合ハ再犯加等ノ部ニテ裁區シテ實ヲ告ケザル罪ハ不問ニ置ト里加等ノ罪免スルトキ加等ノ日數ヲ科スルハ勿論ノ儀ト心得ヘシ

○九年第五十九号 熊谷裁判所 五月七日  
二罪ヲ犯シ人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ隠罪ヲ自首シ減等處分ヲ經然ル後留テ包藏スル重罪ノ發覺スル片ハ仍ホ包藏ノ罪ヲ可科ヤ將々二罪俱發以重論ノ例ニ依ヒ處斷可然哉 ⑤ 二罪俱發例ニ照シ前決ノ日數ヲ扣除シ餘ル日數ヲ科スヘシ

○八年第十六号 新川縣 一月廿四日  
妄ニ賊アリ推問スルニ甲ノ發覺ニ同シ衣類其他三十品ヲ窃取シ十品ヲ配分ラ受テ甲ハ二十品ヲ持行シ丙ヲ知ラサル旨ヲ自ス此ニ於テ事主ノ盜難届ヲ聞スルニ五十品ヲ失フトアリ然ト雖モ甲未タ捕ニ就カサルヲ以テ三十品ヲ贓ニ計ヘ乙ノ罪ヲ擬スヘキ處乙ニ於テハ僅ニ甲持去ル所ノ品數ヲ知ルノミニテ其品位ヲ知テサルニ付估計ノ方法無之依テ止メ十品ヲ以テ處斷可致哉 ⑥ 何ノ通

○八年第十七号 莒縣 一月廿四日  
府縣官吏公事失錯ノ罪ヲ犯レ運係レテ長官官ニ及レ待罪書ヲ正院ニ呈レ決後宣告ヲ控ルノ後ハ主典以下ノ罪ハ長官官之ヲ專決シ可然哉或ハ待罪書ヲ印省ニ申レ斷刑可請給ニ候哉 ⑦ 委任以上ニ懸連ニル罪ハ主典以下ト雖モ其待罪書ハ當省ニ差出スヘシ

○七年第百十三号 關拓吏司 六月廿七日  
名例律公事失錯ノ条其罪ヲ併レテ云カ失入人罪ニ依テ科スト有之斷獄律此入人罪ノ条ニ若シ罪ヲ斷レテ入ルニ失スル者ハ各三等ヲ減スト有之縱令ハ懲後百日ノ罪ヲ減テ懲後二年ニ失ハレ已ニ後スル一年半ト百七十日ニレテ檢舉スルトキハ零百七十日ハ除去レ後過スル一年半ノ三等ヲ減レ懲後一百日不罪ヲ除ク減レ盡レテ剩罪無之ニ付失錯スル官員科ナレト云テ以テ論レ可然哉

○九年第八号 山形縣 一月廿四日  
叔女一家同居シ戶主ハ女ナリ二人同居ヲ犯止メ叔父ヲ坐レ候哉又專制ノ權戶

○九年第八号 山形縣 一月廿四日  
叔女一家同居シ戶主ハ女ナリ二人同居ヲ犯止メ叔父ヲ坐レ候哉又專制ノ權戶

○九年第八号 山形縣 一月廿四日  
叔女一家同居シ戶主ハ女ナリ二人同居ヲ犯止メ叔父ヲ坐レ候哉又專制ノ權戶

○九年第八号 山形縣 一月廿四日  
叔女一家同居シ戶主ハ女ナリ二人同居ヲ犯止メ叔父ヲ坐レ候哉又專制ノ權戶

○九年第八号 山形縣 一月廿四日  
叔女一家同居シ戶主ハ女ナリ二人同居ヲ犯止メ叔父ヲ坐レ候哉又專制ノ權戶

共犯罪分首從

凡共ニ罪ヲ犯ス者ハ造意一人ヲ以テ首ト為シ隨從者ハ從ト為シ一等ヲ減ス若シ一家人共ニ罪ヲ犯セハ止テ尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セ若シ尊長年八十以上及ヒ篤疾アレハ共犯スル其次ノ尊長ヲ坐ス婦人ノ尊長ハ首ヲリト雖モ仍ホ卑幼ノ男夫ヲ坐ス  
其盜罪及ヒ枉法不枉法若クハ鬪毆殺傷等父子同シ犯スハ並ニ凡人首從ノ法ニ依ル若シ共ニ罪ヲ犯シ首從ノ本罪各別ナル者ハ各本律ノ首從ニ依テ論ス假令ハ甲他人ヲ引テ共ニ兄ヲ毆テハ甲ハ弟毆兄律ニ依リ他人ハ凡人鬪毆候論

共犯罪分首從條例

第七十九條 凡本條ニ皆ト言ハスト雖モ脱籍越獄及ヒ犯者若シハ懲後人逃等身自ラ犯スヲ以テ罪ヲ得ルニ係ル者ハ並ニ首從ヲ分クテ各本科ニ處ス  
第八十條 凡一家人共ニ寶物具ヲ偽造スル者ハ一家共犯律ニ依リ止テ尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セス

犯罪事發逃亡

又卑幼外人ヲ引キ己レノ家ノ財物ヲ盜シハ卑幼ハ私擅用財律ニ二等ヲ加ヘ外人ハ凡盜從ニ依テ論スルノ類  
若シ本條内ニ皆ト言フ者ハ首從ヲ分クテ體ニ之ヲ坐シ皆ト言ハサル者ハ首從ノ法ニ依ル  
凡二人共ニ罪ヲ犯スニ一人逃亡シテ現ニ獲ラル者其逃亡スル者ヲ首謀ト稱シテ更ニ證據ナケレハ其稱スル所ニ據リ獲ラル者ヲ從罪ニ決ス後ニ逃者ヲ獲テ鞫問スルニ前獲ノ者選テ首トシテハ前決ノ罪ニ通計シテ後問ノ數ニ充テ後獲ノ者ハ從ニ照シテ之ヲ科ス

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



主ニ在リ以テ止メ姪ヲ坐シ候哉同上ノ際ニ當リ姪ノ齡遙カニ叔父ヨリ長スルモ尊族ナルヲ以テ叔父ヲ坐シ候哉  
 ⑤煙戸主タリト卑幼ニ屬スレハ尊長ノ叔父ノ罪ニ坐レ叔父幼ナルハ姪卑族タルモ年長スルヲ以テ姪ヲ罪ニ坐ス  
 一但シ叔姪並ニ年十五以上  
 ○九年第五号即歌山縣同二月七日  
 婦女懷孕シ胎子出產スルモ食養養育スルニ道無レ因テ同居ノ父母夫兄ニ尚議レ或ハ父母夫兄ノ指令ヲ受ケテ胎子ニ如キ之ヲ綱領改定ノ二律ニ照査スルニ各本科ニ處スル歟一家共犯ヲ以テ論スル歟正條ノ准據又可キ無シ改定律例第七十九條脫離被獄及ヒ犯者若クハ懲役人逃等身自ラ犯スヲ以テ罪ヲ得ルニ條ル者ハ並ニ首從ヲ分テ各本科ニ處スル有之障略ノ如キモ身自ラ犯スヲ以テ同条ニ照依ス可キニ似タリト雖モ七年一月大坂裁判所及ヒ鳥取縣等ノ何州指令ヲ按スル奉家脱籍ノ者一家共犯ヲ以テ論ストアリ然ラハ則チ身自ラ犯ス罪ト並ニ處共犯ヲ以テ論スルアリ又律例第二百六十條ニ曰若レ父母ノ指令ヲ受ケテ私娼

若レ罪ヲ犯シ事發シテ逃亡スルニ現在衆犯ノ證據アリテ其首從明白ナルハ獄已ニ成ルニ同シ後ニ獲ルト雖モ原擬ニ依テ決罰シ更ニ賞對ヲ用ヒス  
 親屬相為容隠  
 凡同居ノ親屬若クハ別居三等以上ノ親屬及ヒ外祖父母外孫妻ノ父母女婿若クハ孫ノ婦夫ノ兄弟及ヒ兄弟ノ妻並ニ罪ヲ犯シテ相容隠シ奴婢雇人家長為メニ容隠スル者ハ皆論スル勿レ若レ官司ノ追捕ヲ偵知シテ其事情ヲ漏泄或消息ヲ通報シ罪人ヲ隠避セシムル者モ亦罪ニ坐ス其別居四等以下ノ親屬相容隠シ及ヒ事情ヲ漏泄スル者ハ各

親屬相為容隠條例  
 第八十一條 凡祖父母ト稱スル者ハ曾高同シ孫ト稱スル者ハ曾玄同シ嫡孫承祖ハ父母ト同シ子ト稱スル者ハ男女同シ  
 第八十二條 凡異籍ノ親屬同居同籍ノ者ハ產ヲ破リ寄食シテ恩養ヲ受ル者ハ俱ニ同居親屬ヲ以テ論ス

ヲ街賣スル者ハ罪ヲ其父母ニ坐シ婦女ハ坐セズ云々是亦身自ラ犯ス罪ナリ若シ一家共ニ罪ヲ犯セハ一家共犯ヲ以テ論ス然レハ則チ障略モ脱籍犯同シ身自ラ犯ス罪ト並ニ處モ同条ノ父母夫兄ノ指揮ニ從ハ一家共犯ヲ以テ論シ可ナラン乎又障略ハ人ニ侵損スル利益詐欺及開毀殺傷ノ類ト殊異ナリ真々中ニ在テ實々ト街ヲ施ス人ニ侵損スト謂フ可カラズ况ンヤ子女妻妾父母長ニ尚議シ或ハ其指令ヲ受ケ障略スル者ニ於テ如何相心得可然哉障略ハ其指嬰兒ヲ殺スト相距不遠ヨリ一家共犯律ニ依ルヘキモノニ非ス其尊長ニ商談レ又ハ指令ヲ受ル者ハ首從ヲ分テ罪ヲ科ス  
 ○九年第五号東京上野裁判所同二月  
 甲乙ノ二盜共ニ室ニ入り甲ハ既ニ財ヲ奪掠レ乙ハ未タ財ヲ獲ヒス車主ニ首從セラレ共ニ逃ル乃チ乙ヲ獲レ之ヲ執訊スルニ乙云共ニ戶外ニ逃走スルノ際甲ノ袱ヲ負擔シ去ルヲ見レ物品ノ何為ルヲ知ラスト茲ニ於テ車主ノ失單ニ照レ計贓セントスルモ甲ヲ捕獲轉問スル

凡人ニ三等ヲ減ス  
 本條別有罪名  
 凡本條別ニ罪名アリテ名例ト罪同シカラサル者ハ本條ニ依テ之ヲ科ス  
 若レ本條罪名アリト雖モ其心規避スル所アリテ本罪ヨリ重ケレハ其重キ者ニ從テ論ス其罪本重カルヘクシテ犯ス時知ラサル者ハ凡人ニ依テ論ス假令ハ叔姪別處ニ生長シ素相識ラズ姪叔ヲ打傷シ官司推問シテ始テ其叔ナルヲ知レバ止ク凡人鬪法ニ依ル又別處ニ竊盜シテ大祀神御ノ物ヲ偷得ル如キ並ニ犯ス時知ラレバ止ク凡盜律ニ依テ論ス其罪本輕カルヘキ者ハ本法ニ從テ聽ス假令ハ

改定律例 ○名例律

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



○二非レハ失フ所ノ財ハ誤犯ニテ盗ニ所  
ノ財ナルコトヲ確知スルコトヲ得ス云々  
乙甲ノ被テ目撃レ去ルヲ見ルトアレハ  
乙ハ賍ノ配分ヲ得スト直モ財ヲ得ル者  
ト云フヘシ最モ主ノ失單ノニテ賍  
ノ多寡ヲ審ニフル雖ハサルキハ其賍ノ  
最少ノ被テ以テ律ニ照シテ科斷ス可シ  
○指合録第五号京都裁判所判例  
犯罪幸甚逃亡條若シ罪ヲ犯事發シテ云  
ク賍對テ用ヒストアリ右被犯トハ同律  
稱日者以十二時條被テ稱スルハ三人以  
上トアルニ依リ其逃亡者四人以上逃亡  
スルニ現獲ノ者三人以上ナルルニ注  
用ニ若其現獲人二人ナルルハ仍ホ前法  
ノ罪ニ通計シ後問ノ赦ニ充ルノ法ニ依  
テ處分スルニ可有之ト雖已ニ罪ヲ犯ス  
ルハ證ニ依ルテ御政王之マレ上ニ此注  
ニ依ラス各其犯罪ノ証佐ニ依テ處分ス  
ル後ハ心得可然或ハ伺ノ通  
○七年第六十号官廳判例  
殺人共ニ強盜ヲナシ内一人ハ兇器ヲ持ス  
レハ其兇器ヲ持セザル者モ皆持兇器  
強盜ヲ以テ論シ可然或ハ伺ノ通  
ノ情ヲ知ラサレハ共盜ノ者ハ不持兇器

父子ヲ識ラズ毆打ノ後始テ子ナルコトヲ  
知ル者ハ止々父打子法ニ依ル凡毆ヲ  
以テ論ス可ラス  
加減罪例  
凡加ト稱スル者ハ本罪上ニ就テ加重假  
令ハ答四十ヲ犯スニ一等ヲ加フレハ答五  
十二坐シ杖一百八徒一年ニ坐シ徒三年ハ  
流一等ニ坐シ流二等ニ坐スルノ類  
減ト稱スル者ハ本罪上ニ就テ減輕ス假令  
ハ答五十ヲ犯スニ一等ヲ減スレハ答  
四十二坐シ徒一年ハ杖一百ニ坐シ徒  
三年ハ徒二年半ニ坐スルノ類  
惟ニ死三流ハ各同ク一減ト為ス假令  
ハ死罪ヲ犯スニ二等ヲ減スレハ絞斬ヲ分  
ス

加減罪例條例  
第八十三條 凡三流同ク一減ト為ス  
律ヲ改メ懲後三年以下同分テ三等ト為  
シ減ス其ニ死ノ減法仍ホ本律ニ依ル  
第八十四條 凡懲後終身ハ死刑ノ一  
部ニ準スト雖モ其加減ノ法ニ依ル  
通シテ同ク一減ト為ス得ス假令ハ  
死罪ヲ犯スニ一等ヲ減スレハ絞斬ヲ分  
クニ懲後終身ニ坐ス若シ本條加ヘテ  
死ニ入ル者ハ改テ一體ニ懲後終身  
ニ止ム其監守常人盜私借官物及ロ

明治九年  
○九年第五十四号官廳判例  
凡初犯強盜  
ニシテ再犯強盜  
守盜若シハ  
常人盜ナル  
者及ヒ初犯  
常人盜ニシテ  
再犯強盜守盜  
若シハ初犯  
再犯強盜守盜  
一等ヲ加フ  
○九年第五十四号官廳判例  
凡初犯強盜  
ニシテ再犯強盜  
守盜若シハ  
常人盜ナル  
者及ヒ初犯  
常人盜ニシテ  
再犯強盜守盜  
若シハ初犯  
再犯強盜守盜  
一等ヲ加フ  
○九年第五十四号官廳判例  
凡初犯強盜  
ニシテ再犯強盜  
守盜若シハ  
常人盜ナル  
者及ヒ初犯  
常人盜ニシテ  
再犯強盜守盜  
若シハ初犯  
再犯強盜守盜  
一等ヲ加フ

流三等ニ坐シ流罪ヲ犯スニ一等ヲ減  
スレハ徒三年ニ坐スルノ類  
加スル者ハ救滿テ乃坐ス凡兩數日數  
人數器物地畝ノ數皆必ス其數ニ滿ツ  
ルヲ計リテ乃始テ坐ス加等罪ハ流三  
等ニ止ル加ヘテ死ニ至ルヲ得ス若シ  
本條加ヘテ死ニ入ル者ハ本條ニ依  
テ加  
再犯加等罪例  
凡竊盜及ヒ賭博ヲ犯シ已ニ官司ノ斷  
決ヲ經テ再タヒ犯ス者ハ並ニ後犯ノ  
本罪ニ一等ヲ加フ其贓ヲ計ルハ初犯  
ノ贓ニ通算シテ科スルコトヲ得ス若シ初  
犯ノ贓赦前ニ在ル者ハ再犯ト雖モ仍

改定律例  
第八十五條 凡罪ヲ犯シ年ヲ歴テ發  
覺スル者ハ並ニ舊惡ヲ以テ論シ舊  
惡減免例圖ニ照シテ區處スルコトヲ  
聽ス若シ事ノ改正ス可ク贓ノ追徵  
スヘキ等ハ罪ヲ免スト雖モ仍ホ追  
究明白シテ各本法ヲ盡ス其謀故後  
ヲ犯ス者ハ此限ニ在ラス  
再犯加等罪例條例  
第八十六條 凡減上等赦前後ニ盜ヲ  
犯ス者ハ赦後ノ贓ヲ以テ赦前ノ贓  
ニ併セ罪一等ヲ減ス若シ併セテ赦  
後ノ本贓ト罪等ト者ハ減セス例首  
從贓並發者ト同シ

新律綱領 ○各例律

改定律例 ○各例律



スル者ハ外留之ヲ加功ス其入ハ父母  
改竊ヲ稱シテ依リ其後三年外留ハ三其  
以下重長改竊重積ニ照レ絞罪ノ所  
反リ以論シ懲文ハ五年外留ノ以テ  
改竊ノ下ハ其罪重積以下ノ所  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通  
改竊等ニ照シテ可然哉同ノ通

初犯ヲ以テ論ス  
其初犯強盜ニシテ再犯強盜ナル者及ヒ  
初犯竊盜ニシテ再犯強盜ナル者再犯ト  
雖モ仍ホ並ニ初犯ヲ以テ論シ一等ヲ加フ  
若シ徒限内ニ在テ逃走者ハ律ニ依  
リ罪ヲ科スト雖モ外ニ在テ又罪ヲ犯ス  
者徒罪以下ノ答ニ至ルヲ並ニ徒一等  
ヲ加フ加ヘテ四年ニ過ル者ハ流ニ入レ再  
逃スル者ハ本律ニ依テ之ヲ科ス  
其先キニ罪ヲ犯ラ未ク論決セシテ  
監獄ニ在リ脱越スル者ハ律ニ依リ罪  
ヲ科スト雖モ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者  
ハ前後二罪ノ重キ者ニ從ヒ二等ヲ加  
フ賊罪ニ係ル者ハ賊ニ計ヘ通計合算

第八十七條 凡徒限内ニ逃走ノ外ニ  
在テ又罪ヲ犯ス者徒罪以下ノ答ニ  
至ルヲ並ニ徒一等ヲ加フル律ニ依  
リ懲後人逃條例ニ依テ科斷ス  
同六年七月廿四日第三百六十七号御布告  
再犯加等罪例條例  
凡監等及ヒ常人盜再犯スル者ハ竊盜ト  
同ク並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フ  
同九年七月廿二日第四百號御布告  
再犯加等罪例條例  
凡初犯再犯各次罪ヲ犯シ己ニ斷決ヲ  
經テ又盜罪ヲ犯ス者ハ其輕ト所ノ  
盜罪三犯ヲ以テ論ス若シ後犯ノ罪  
重キ者ハ重キニ從テ論ス假令ハ初

明白ニシテ授承ニ服セサルノ犯人ニ於  
テハ其罪取調強積スル日ヨリ事放テ  
テ流獄二十日以外ニ及時ハ七年五御布  
告流獄例ニ照シテ科斷ス  
○自今當職罪因日及計算ノ後ハ其罪  
ノ重積強積三十日以外ニ及時ハ三  
十日ニ限リ以テ論スル日數ヲ事放テ  
算入ス可シ  
○指合録第七号鶴岡裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同  
指合録第七号東京裁判所同

シテ二等ヲ加フ  
稱乘輿車馬  
凡乘輿車馬及ヒ御ト稱スル者ハ太皇  
太后皇太后皇后並ニ同シ詔ト稱スル  
者太皇太后皇太后皇后及ヒ皇太子ノ  
令ハ並ニ一等ヲ減ス  
稱同罪  
凡同罪ト稱スル者ハ止々其罪ニ坐ス  
正犯死ニ至ル者同罪者ハ等ヲ減シ罪流  
三等ニ止ル唯ク正犯ノ財ヲ受ケ故縱  
スル同罪者正犯死ニ至レハ同罪者ハ絞ニ處  
ス其罪同ト稱スル者ハ死ニ至レモ減等セズ  
枉法ニ準シテ論シ盜ニ準シテ論スト稱ス  
ル等但タ其罪ニ準シテ亦罪流三等ニ止ル

第八十八條 凡正犯ノ財ヲ受ケ故縱  
スル同罪者正犯死ニ至レハ同罪者ハ  
絞ニ處スル律ヲ故ノ懲後終身從フ  
第八十九條 凡盜ニ準シテ論スル罪  
ハ犯數ニ計ヘ罪懲後十年ニ止ル  
第九十條 凡詐欺恐喝取財等盜ニ準  
スル罪士族ハ破廉耻甚クテ以テ論ス

新律綱領 ○名例律

改定律例 ○名例律



















ヲ以テ論ヘ可レ

◎七年第四十五号改定刑罰令  
 辛未七月民部大藏両省ヨリ布令清濁酒  
 醬油鹽札收與并收稅方法規則第一則ニ  
 免許鹽札萬一流失燒失或ハ盜難等ニテ  
 失俟者ハ其改租稅同ヘ申立更ニ鹽札相  
 下可申ト有之右ハ燒失流失盜難等ノ事  
 ニ因ニ非レテ其怠懈ニ因リ遺失スル者  
 ハ裁許ノ罰金申付ヘク哉◎例第百一條  
 ニ照シ贖罪金七十五錢可申付事  
 ◎七年第六十八号置賜縣例  
 兼殿官文書條凡官ノ文書云々餘ノ文書  
 ハ各五等ヲ減ヌト有之右五等ヲ減ヌル  
 トハ官省察司府藩縣ノ別ナク一百及七  
 十ヨリ直チニ五等ヲ減レ可然哉◎官省  
 察司府藩縣ニ餘ノ文書ヲ以テ論ス可キ者  
 ハ一百及七十七ヨリ五等ヲ減ヌ可レ  
 ◎七年第七十八号山口縣例  
 指令ニ◎餘ノ文書ト稱スル者ハ官省察  
 司府藩縣ノ名義ヲ以テ行フ文書ノ外縣署  
 四課ノ如キ一局限リノ文書ヲ謂フ通行  
 印鑑ト稱スル者ハ官廳諸門ノ出入ニ用  
 エルノ印鑑ヲ謂フ  
 ◎七年第八十六号兵庫裁判所例

糧數目ノ錯亂ヲ致ス者ハ杖八十其水  
 火盜賊ニ因テ毀失スル者ハ坐セス  
 詔書有違

凡詔書ヲ奉シ施行スルニ官吏故サレニ違  
 フル者ハ徒二年失錯スル者ハ杖八十誤  
 寫ス者ハ答四十未タ施行セサル者ハ一  
 等ヲ減ヌ若シ官ノ文書ヲ施行スルニ故  
 サレニ違フル者ハ杖八十失錯スル者ハ答  
 五十誤寫シテ車害アル者ハ答三十省臺  
 察司府藩縣ノ文書ヲ故サレニ違フル者ハ並ニ  
 杖七十失錯スル者ハ答四十誤寫シテ事  
 ニ害アル者ハ答二十餘ノ文書ハ各一等  
 ヲ減ヌ害アラサル者及ヒ未タ施行セ  
 ザル者ハ並ニ論スルコト勿レ

等ヲ減シ餘ノ印ハ各五等ヲ減ヌ規  
 避スル所アル者ハ各重キニ從テ論  
 ス

慶刑濟護送人有之府縣ヨリ添輪途中  
 ニテ遺失セシ者即府縣ノ文書ナルヲ以  
 テ懲役五十日ノ贖罪ニ可處可護送人ヲ  
 失ヌルハ僅ニ違式輕ニ問夫ニ屬スル一  
 封ヲ遺失スレハ五十日ヲ贖ヌル顯過酷  
 ヲ覺フ云々右等ノ如キハ府縣ノ文書ト  
 雖輕項ノ事件ニ係ル文書ハ對的レテ違  
 式ニ問如何可有之哉◎輕項ノ事件ニ係  
 ル文書ト雖モ縣廳ノ名義ヲ以テ施行シ  
 ル者ハ縣ノ文書ヲ以テ論ス  
 ◎七年第九十二号新川縣例  
 判任官及等外辭令ヲ遺失スル者且拾ヒ  
 得ル者處分如何致可然哉◎縣ノ文書ヲ  
 遺失スルヲ以テ論スト雖他人ノヲ拾得  
 遺失至ニ拾セハ罪ノ問フ可キナレ但シ  
 拾得者ニ拾テ處分ノ方法ヲ示ス  
 ◎七年第九十六号白川縣例  
 鳥獸獵規則第八條鹽札ヲ遺失スル者云  
 ヲ但書ニ其遺失スル者ハ印鑑遺失例ニ  
 照スヘレト之アルハ例百三條餘ノ印ハ  
 各五等減ノ例ヲ照スヘキヤ百一條通行  
 印鑑遺失スル者ノ權衡ニ難擬哉◎改定  
 律例第百一條ニ照シ處決スヘレ  
 ◎七年第百二号東京府例 六月二日

上書奏事錯誤

凡上書及ヒ奏事ニ錯誤シテ原免ト言フ  
 可クシテ不免ト言ヒ十石ト言フヘクレテ  
 十石ト言フノ類ノ事ニ害アル者ハ答五十  
 官ニ申スル文書ハ答三十省臺察司府藩  
 縣ニ申スル文書ハ並ニ答二十其餘ニ申  
 スルノ文書ハ答一十若シ申スルトヨリ錯誤  
 アリト雖モ文案行フ可クシテ事ニ害  
 アラサル者ハ論スルコト勿レ  
 車應奏不奏  
 凡軍務錢糧制度死罪災異其他事奏ス  
 可クシテ奏セサル者ハ杖七十上司ニ  
 申スヘクレテ申セス下司ニ行ヌ可ク  
 レテ行セサル者ハ答三十規避スル所

新律綱領 ○職制律

改定律例 ○職制律



人民諸職之儀ニ付否ノ指合書ヲ撰  
失スル者地券遺失ト同様ニ看做レ可  
然哉同之通  
◎七年第百十七号三重縣伺 六月廿七日  
第一二類証印帳簿其他諸職遺失ヲ遺  
失スル者ハ通行印鑑ヲ遺失スルヨリ輕  
キヲ以テ其罪ヲ問ハス可然哉同之通  
薄遺失スル者ハ其罰ヲ問ハス酒造其他  
ノ鑑札ヲ遺失スル者ハ本年第百十七号  
布告ニ照レ處カヌヘレ  
◎七年第百十八号岡山縣伺 六月廿八日  
第四條請取証文印紙貼用心得方規則  
第廿五條ノ薄帳ハ租稅頭印紙收領ノ印  
アリ際官取扱人ノ實印ナリ若シ之ヲ遺  
失スルモ屢ニ印稅ヲ收メレ以上ハ証文  
印紙同様ナレハ別段咎ルニ不及候哉同  
伺ノ通  
◎七年第百三十三号京都府伺 七月廿五日  
指合◎証文印紙并ニ右貼用ノ書面或ハ  
証印ヲ請ケレ帳簿ヲ遺失誤毀スル者ハ  
罪ノ論ヌ可キナレ  
◎七年第百廿七号青森縣伺 七月廿二日  
指合◎縣下限リノ鑑札ヲ遺失スル者ハ  
改定律例第百一條ニ照レ照印ハ同第百

アル者ハ重キニ從テ論ス  
若レ已ニ奏シ已ニ申レテ回報ヲ待タズ輒  
ク施行ス者ハ並ニ不奏不申ノ罪ニ同レ  
失誤朝賀  
凡朝會慶賀ヲ所司先キニ告示セサル  
者ハ答三十其已ニ告示ヲ承ケテ失誤  
スル者モ罪同  
失儀  
凡祭祝及ヒ園陵ニ謁拜シ若クハ朝會  
ニ禮ヲ行ヒテ差錯シ及ヒ儀ヲ失スル  
者ハ答一十  
擅離職役  
凡官吏疾病公差等ノ故無シテ擅ニ職役  
ヲ離レ外ニ出仕者答三十若レ難ヲ避ケ

無故不朝參公坐條例  
第百四條

三條ニ照レ支應及ヒ四課ノ印ハ同条餘  
ノ印ヲ遺失スルモ照レ處カヌヘレ  
◎七年第百六十号京都府伺 七月廿五日  
指合◎罰文寫ヲ遺失スル者ハ論ヌ可キナレ  
◎七年第百七号正院廻閣拓少判官堀  
基退伺 二月五日  
指合◎外國人ハ應答ノ文書ヲ誤寫スル  
者 職制律詔書有違條使ノ文書ヲ施行  
スルニ誤寫レテ事ニ害アル者ヲ以テ論  
レ懲役二十日公罪例ニ照レ  
贖罪金三圓 堀 基  
◎七年第百五十五号千葉縣伺 三月廿七日  
當裁判所ヨリ千葉縣ヘ交付ス應役人ノ罰  
父ヲ騰寫レ簿冊ニ登記スル際六十日ヲ  
五十日ト誤寫レ依テ其囚人役限滿スレ  
テ放免ヌ右誤寫スル官吏ハ職制律詔書  
有違條省察司府縣ノ文書ヲ誤寫レテ事  
ニ害アル者ハ答二十是斷獄律出入人罪  
條出タヌニ失スル者ハ五等ヲ減ストア  
ルニ擬シ重キニ從テ科シ其囚人ハ既ニ  
放免セラル儀ニ付餘ノ日數更ニ拘役  
致ナセム候テ可然哉同之通  
◎七年第百四十二号濱田縣伺 二月廿四日  
官廳ハ進達スル文書添削ノ依頼ヲ肯

因テ逃走スル者ハ杖九十避ルトコロ  
事重キ者ハ各重キニ從テ論ス  
若レ官吏直宿ヌ可クシテ直宿セサル  
者ハ各答一十因テ事ヲ失スル者ハ重  
ニ從テ論ス  
無故不朝參公坐  
凡官員故無シレテ朝參公坐セヌ及ヒ  
給假ノ限滿テ故無シテ職役ニ還ラサル  
者ハ一日ニ答一十三日毎トニ一等ヲ  
加ヘ罪杖八十二止ル  
衝突儀仗  
凡車駕行幸ノ處ハ近侍及護駕ノ官軍ヲ  
除ク外其餘ノ軍民並ニ迴避ヌヘレ敢  
テ儀仗内ニ衝入ス者杖一百

無故不朝參公坐條例  
第百四條

新律綱領 ○職制律

改定律例 ○職制律



レ誤テ緊要ノ文字ノ割リ事ニ害アル者  
 上テ奏事諸律條ニテ云ルニ云々廿二  
 下云 依リ贖罪可申付故同ノ通 縣  
 二申ヌル文書ニ諸誤レテ事ニ害アル者  
 懲役二十日贖ヲ聽シ處斷スヘレ 山  
 部外一名事ハノ可也 廿三  
 廿四  
 其方儀苗十苗等儀ハ參事奉職中各處後  
 任人共ヘノ配賦額金ヲ以斗南移任人ノ  
 訛患ヲ專斷ニテ救助スル事職制律事應  
 奏不奏條不申内ニ依リ罰額ニヘテ是也  
 門察察ノ如クアラヌ事民既死ニ至ラン  
 トヌルヨリ一時急急ヲ救助スル事職制  
 不得止ノ情ニ出且急急縣ヘ合從レ重務  
 交付スルノ除一應縣官ヘ救助ノ軍狀ヲ  
 申進キ仍ホ大藏省ヘ難願スルニ依リ自  
 ラ贖率レ事ニ無害ヲ以テ論シ故免申付  
 候事  
 廿七 年 第 百 四 十 七 号 普 照 縣 伺  
 普照縣員儀公儀御處分彼仰出夫ノ取調  
 儀至ヨリ証書寫取置百事抄後ノ際  
 國儀於ヘ申進ニ遺漏レ債主終結ヲ生  
 若シ債狀專務ノ旧官員並科儀上書奏

陸軍中佐山川浩

至下馬牌不下

凡下馬牌ニ至リ下ラステテ過ル者ハ  
 管四十行官ハ一等ヲ減ス

出納有違

凡官物ヲ出納シ給收違テ有ル者ハ  
 餘スル物ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論ス

那移出納

凡官吏錢糧等ノ物ヲ出納スルニ文案勘  
 合アリテ那移ス可ラス若シ文案勘合ニ依  
 ラス那移出納シ還テ官用ニ充ル者ハ  
 贓ニ計ヘ坐贓ヲ以テ論ス

私借官物

凡監臨主守私借官物ヲ借用  
 シ若シハハニ轉借スル者證書ナキハ監守

改正私借官物律

第百五條 凡監臨主守監守スル所ノ官  
 財物ヲ私借用シ若シハハニ轉借シ及

軍錯誤同軍應奏不奏条中上司ニ申ス可  
 レテ申セス等ニ問擬可致故 軍應奏不  
 奏條上司ニ申ス可シテ申セサル者ヲ  
 以テ罪ヲ科ス  
 廿七 年 第 七 十 六 号 滋 賀 縣 伺  
 區戸長等其區村内ノ諸勤定等職務怠惰  
 ヲリ精算セズ終ニ過不足ヲ生レ或ハ又  
 私欲ノ為ニ非ヌト雖モ文案勘合ニ仍ラ  
 ス一時緩急等致者ハ一區一村ノ出納ナ  
 レモ仍ホ官物ト同ク出納有違那移出納  
 等ノ條ニ仍リ罪ヲ科シ可然哉又ハ情ヲ  
 量リ違式輕重ニ問ヒ可然哉 本文ノ如  
 キハ出納有違那移出納等ノ条ニ比擬レ  
 テ罪ヲ科ス可シ  
 廿七 年 第 八 十 三 号 濱 州 縣 伺  
 五月五日  
 凡訴訟ニ付割賦金下付ノ際官吏ノ調査  
 ニ失レテ給收ヲ違フ者如何可處哉 職  
 制律出納有違条ニ依リ可シ  
 廿七 年 第 百 七 十 六 号 滋 賀 縣 伺  
 廿七日  
 官吏官物ヲ授受ノ際誤テ無印紙ノ証書  
 ヲ受取置者ハ違式輕重ニ擬レ因テ官ニ  
 損失ヲ生ヌルハ出納有違條ニ照レ坐  
 贓ヲ以テ論シ可然哉 無印紙ノ証書ヲ  
 受取ル者ハ罪ノ論スヘキナレ因テ官ニ

盜ニ準レテ論シ罪流ニ等ニ止ル證書  
 アルハ二等ヲ減ス其監守人ニ非スレ

テ借ル者ハ常人盜ニ二等ヲ減シ罪徒  
 三年ニ止ル若シ自己ノ物ヲ以テ官物  
 ニ抵換スル者罪亦同

不覺被盜

凡倉庫内ノ物ヲ盜マレテ主守覺察ニ失ス  
 ル者管四十其強盜ニ遇ヒ防禦スト雖モ  
 力敵スル能ハサル者論スル勿レ

比自己ノ物ヲ以テ官物ニ抵換スル  
 者ハ監守自盜ト罪同其監守人ニ非  
 スレテ借用シ情ヲ知ル者ハ罪同知  
 ラナル者ハ坐セズ  
 私借官物條例  
 第百六條 凡監臨主守監守スル所ノ錢  
 糧ヲ私借用シ若シハハニ轉借シ及  
 之ヲ借ル者事未タ發覺セステ完備  
 スル者ハ止メ犯情ヲ量リテ不應為ニ  
 問ヒ輕重ヲ分ツ  
 不覺被盜條例  
 第百七條 凡垣牆内ニ在ル水石等ヲ  
 盜三主守覺察ニ失ル者懲役二十日

新律綱領 ○職制律

改定律例 ○職制律



損失ヲ生ゼルムルハ其旨ヨリ做ハレムヘレ

○七年第六十四号秋田縣令

地券大成ノ時ニ在テ其職ニ應リ深ク上  
司ノ意ヲ體認シ公私ノ為ニ速捷ヲ要ス  
ルノ意急ナルヲ以テ是斷レテ官金ヲ初  
段投録ノ諸費ニ繰替ルト雖活ヒ私ニ荷  
ラス結算自カラ償完スルヲ以テ那移出納  
条ニ依リ禁錮一十日中付可然故○深ク  
上司ノ意ヲ體認シ一円ノ處分ヲ以テ實  
ヲ行フニ依リ 不移出納及又案勘合ニ  
依ラス即移出納スト云テ以テ論レ駐金  
五圓以下禁錮十日ノ處事情ヲ登リ 賄  
罪金七十五錢 高ノ榮光

○七年第六十三号高知縣令

別紙罪案ニノ通并窪下角兩村官物代金  
拂右村ノ者ヨリ合田正繁<sup>十</sup>相田<sup>十</sup>相田<sup>十</sup>相田<sup>十</sup>  
前ノ相渡候上ハ官物ト見做レ農民ハハ  
首米再追徴不致テ可致故○此輩務ヲ接  
當レ收徵スル旨米ノ代金ヲ私櫃ニ費用  
スル者私借官物檢臨主守私ニ監守ス  
ル所ノ官物ヲ借用レ證言ナキハ監守者  
ニ準レテ論レ罪流三等ニ止ルトマルニ  
據レ 除秋憲後十年<sup>十</sup>三國縣令田正繁

○七年第六十二号秋田縣令

私借官物者ノ犯處<sup>十</sup>方<sup>十</sup>行<sup>十</sup>合<sup>十</sup>以<sup>十</sup>三  
○寫盜ニ非ニ及ヒ金ク借用ニ出ル者ト  
認ムルハ各盜罪又ハ費用<sup>十</sup>官物<sup>十</sup>差<sup>十</sup>律  
ニ依テ論スル限ニアラニ裁判官ノ見ハ  
以テ裁可ス

○七年第六十一号秋田縣令

病院醫士<sup>十</sup>依<sup>十</sup>不<sup>十</sup>官<sup>十</sup>病<sup>十</sup>院<sup>十</sup>ハ<sup>十</sup>併<sup>十</sup>渡<sup>十</sup>置<sup>十</sup>可<sup>十</sup>監  
權ニ罹リ<sup>十</sup>ツク<sup>十</sup>一<sup>十</sup>被<sup>十</sup>盜<sup>十</sup>取<sup>十</sup>不<sup>十</sup>盜<sup>十</sup>犯  
捕縛<sup>十</sup>及<sup>十</sup>糾<sup>十</sup>彈<sup>十</sup>呼<sup>十</sup>右<sup>十</sup>品<sup>十</sup>情<sup>十</sup>ト<sup>十</sup>内<sup>十</sup>道<sup>十</sup>具  
三品<sup>十</sup>秩<sup>十</sup>失<sup>十</sup>有<sup>十</sup>之<sup>十</sup>右<sup>十</sup>不<sup>十</sup>足<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>代<sup>十</sup>備<sup>十</sup>ヲ<sup>十</sup>以<sup>十</sup>監<sup>十</sup>院  
ハ<sup>十</sup>為<sup>十</sup>備<sup>十</sup>可<sup>十</sup>然<sup>十</sup>哉<sup>十</sup>且<sup>十</sup>重<sup>十</sup>答<sup>十</sup>直<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>旨<sup>十</sup>ハ<sup>十</sup>其<sup>十</sup>罪<sup>十</sup>ヲ<sup>十</sup>不  
問<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>可<sup>十</sup>然<sup>十</sup>哉<sup>十</sup>何<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>通<sup>十</sup>

○七年第六十号秋田縣令

憲報<sup>十</sup>下<sup>十</sup>越<sup>十</sup>智<sup>十</sup>郡<sup>十</sup>八<sup>十</sup>大<sup>十</sup>區<sup>十</sup>軍<sup>十</sup>務<sup>十</sup>所<sup>十</sup>ニ<sup>十</sup>於<sup>十</sup>テ<sup>十</sup>去<sup>十</sup>夜  
雜<sup>十</sup>稅<sup>十</sup>金<sup>十</sup>五<sup>十</sup>圓<sup>十</sup>七<sup>十</sup>錢<sup>十</sup>六<sup>十</sup>厘<sup>十</sup>被<sup>十</sup>盜<sup>十</sup>取<sup>十</sup>候<sup>十</sup>段<sup>十</sup>屆  
出<sup>十</sup>所<sup>十</sup>被<sup>十</sup>本<sup>十</sup>犯<sup>十</sup>人<sup>十</sup>不<sup>十</sup>相<sup>十</sup>分<sup>十</sup>區<sup>十</sup>長<sup>十</sup>及<sup>十</sup>取<sup>十</sup>刑<sup>十</sup>處<sup>十</sup>少<sup>十</sup>  
民<sup>十</sup>費<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>關係<sup>十</sup>ヲ<sup>十</sup>顧<sup>十</sup>念<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>宿<sup>十</sup>番<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>者<sup>十</sup>ト<sup>十</sup>不<sup>十</sup>差<sup>十</sup>置  
ヨリ<sup>十</sup>右<sup>十</sup>振<sup>十</sup>不<sup>十</sup>都合<sup>十</sup>ヲ<sup>十</sup>成<sup>十</sup>成<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>何<sup>十</sup>共<sup>十</sup>恐<sup>十</sup>入<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>段  
申<sup>十</sup>出<sup>十</sup>候<sup>十</sup>區<sup>十</sup>長<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>處<sup>十</sup>分<sup>十</sup>右<sup>十</sup>ノ<sup>十</sup>順<sup>十</sup>序<sup>十</sup>ヲ<sup>十</sup>以<sup>十</sup>ス<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>ハ

Table with 10 empty columns and 1 row.

同九年四月十四日第四十八號御布告  
新律綱領改定律例中職制律ヲ廢ス  
但レ私借官物律例ハ改メテ賊盜  
律監守自盜ノ部ニ入ル  
新律綱領改定律例中官吏公罪ニ係  
ル者<sup>十</sup>廢<sup>十</sup> 官吏犯公罪同條犯公罪公  
事失錯失出入人罪及ヒ改定  
律例第百五十四條等ノ類  
自今官吏職務上ノ過失ハ有心故造  
私罪<sup>十</sup>文<sup>十</sup>者<sup>十</sup>ヲ<sup>十</sup>除<sup>十</sup>ク<sup>十</sup>外<sup>十</sup>其<sup>十</sup>本<sup>十</sup>屬<sup>十</sup>長<sup>十</sup>官  
ニ任<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>テ<sup>十</sup>懲<sup>十</sup>戒<sup>十</sup>處<sup>十</sup>分<sup>十</sup>セ<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>ム  
右布告候事  
同九年四月十四日第三十四號御達  
官吏懲戒例  
第一條 自今私罪ヲ除ク外官吏職務

Table with 10 empty columns and 1 row.

上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒  
權ヲ有ス可シ  
第二條 懲戒ノ法三種トス第一譴責  
第二罰俸第三免職  
第三條 譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシ  
テ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス  
第四條 罰俸ハ半月ヨリ少カラス三  
月ヨリ多クナルノ間俸ヲ奪フ俸  
ヲ追スルノ法ハ毎月給俸ノ半ヲ領置  
レ數滿テ大藏省ニ送付ス  
第五條 懲戒ヲ以テ免職ス者ハ本屬長  
官意見<sup>十</sup>從<sup>十</sup>ヒ<sup>十</sup>其<sup>十</sup>奏<sup>十</sup>任<sup>十</sup>ハ<sup>十</sup>且<sup>十</sup>狀<sup>十</sup>奏<sup>十</sup>請<sup>十</sup>レ  
テ之ヲ免<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>位<sup>十</sup>記<sup>十</sup>ヲ<sup>十</sup>返<sup>十</sup>上<sup>十</sup>セ<sup>十</sup>レ<sup>十</sup>ム  
但懲戒ニ由ルニアラマレテ免職スル

新律綱領 ○職制律

改定律例 ○職制律







本屬長官遷付シテ其處分ニ任ス可キ儀ト可相心得此旨相達候事	同輩十月八日御達。本年四月第三十四号達官史懲戒例儀存向左通相達候事	准官吏並要外吏本例ニ照テ處分備其他種々名義以テ公事關ス者本屬長官ノ見込以テ適宜處分スヘシ	官國幣社神官並教導職過失發見スル時所在地方官其器具教部官届出ヘシ	府縣町村社神官地方長官見込以テ適宜處分其免職係者處分ノ教部官届出	巡查及學校其他諸場所如別懲罰規則有之分本例限ニテラス	民費以テ給俸充者罰俸並其處罰限ニテ
------------------------------	-----------------------------------	--	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------	-------------------

⑧ 八年第三十九号滋賀縣伺 一月廿四日  
官地持下ヲ額置耕種ノ時節ニ差向トテ  
許可テ受ケテ大體ニ開墾耕種スル者情ヲ  
量リ違式輕重ニ問ヒ贖ヲ聽シ得ル所ノ  
被拘現在スレハ官ニ没シ己ニ費用スル  
者ハ追徵スル可然哉 但山林等ニテ  
採掘等スル者ハ其竹木ハ己ニ費用ス  
ル可然哉 然レモ其竹木ハ其代價ス  
ルハ拂下ケ成ルヘキ地所ナレバ何ノ通  
違式ニ問ヒ贖ヲ聽シ教物現在スルモ追  
徵ニ及ハズ若シ入札又ハ拂下ケ成ルサ  
レ地所ナレトキハ前同罪狀應ニ科シ教  
物費用スルモ資力ヲ量リ追徵スル所  
補下ケ成ルヘキ地所ナレバ本文ノ通り  
處分シ入札等ナレバ竹木ハ其代價ス  
ル竹木ハ贖ニ計ヘ常  
人盜ニ准シテ論ス  
⑨ 八年第四十九号滋賀縣伺 二月廿四日  
地方家作等ヲ他人ヨリ賃借スル者其地  
所家作ヲ自己ノ所有物ト欺キ他ニ典賣  
スル者ハ盜賣田宅條ニ依リ盜ニ准シテ  
論スルハ勿論ノ處其地所並ニ作付ノ樹  
木並器物等ヲ換易又ハ典賣スル者モ亦  
盜ニ准シテ論ス可然哉  
他人ノ衣服及具等ヲ借用スル者其  
質等ノ者換易スル者貸主ノ告テス權  
ナレバ典賣又ハ換易スル者モ亦盜ニ准シテ

新律綱領目錄

戶督律 計一十一條	差役不均	欺隱田糧	盜賣田宅	重典賣田宅	乘駁器物稼穡	立嫡違法	逐婿嫁女	匿父母夫喪	子弟私擅用財	逃亡
-----------	------	------	------	-------	--------	------	------	-------	--------	----

改定律例目錄

戶婚律 計十四條 增補三條	欺隱田糧 二條	同改正 一條	乘駁器物稼穡 二條	同改正 二條	立嫡違法 三條	子弟私擅用財 二條	逃亡 五條
------------------	---------	--------	-----------	--------	---------	-----------	-------

新律綱領 ○目錄

改定律令 ○目錄







問ト情ヲ量リ實決贖罪ニ区處ス但シ贖金ハ贖ニ計ヘス進

⑧ 八年第五十号和歌山縣衙

隨胎業ヲ調劑ノ姓名居所等ヲ熟知セサル者ヘ販賣セシユヘ固ヨリ隨胎シタルヤ否モ亦知ル可カラズ是等ハ直ニ戸籍律立竊違法條例情ヲ知テ業ヲ賣リ及ビ技術ヲ施ス者同罪ト云フニモ遺漏シ難キ欺違令極重ニ問ヒ實斷ス可キ哉

⑨ 八年第八十七号廣島縣衙

明治六年第二十八号同公布八人民一般ニモシテ其罪同十條 指令ニ依リ律ト令ト抵觸シ録裁ヲ生ス云々ノ伺ニ仰明治六年公布八兼テ正院御指令ノ通基士族ニ限リ平民ノ事ニ及ハズト雖モ自ラ立竊違法ノ律存スルアレハ平民ト雖モ其違添ノ一アル可カサル知ルベシ公布ハ基士族家督相續前以テ可讀出儀ヲ特令シ律ハ一般ニ及ホス者ト心得ベシ

⑩ 九年第十五号和歌山縣衙

婦女懷孕シ胎ヲ生スルモ倉裏倉裏育スルニ道無シ因テ同府ノ父母夫兄ニ向議シ或ハ父母夫兄ノ指令ヲ受ケテ隨胎入

ル如キ之ヲ綱領規定ノ二律ニ照査スルニ各本科ニ屬スル欵一家共犯ヲ以テ論スル欵正條ニ准據ス可キ無シ律令第九十九條脫籍云々各本科ニ屬スト有之隨胎ノ如キモ身自ラ犯ヲ以テ同條ニ照依ス可キニ似タリト雖モ七年一月 大坂府及島根縣 御指令ヲ按スルニ舉家脱籍ノ者一家共犯ヲ以テ論ストアリ然ハ則身自ラ犯人業ト雖一家共犯ヲ以テ論スルアリ又律例第二百六十七條ニ曰若父母ノ指令ヲ受私娼ヲ街賣スル者ハ云々是亦身自ラ犯入罪ナリ云々又隨胎ハ人ニ侵損スル竊盜欺及門毆殺傷ノ類ト殊異ナリ其々中ニ在テ其々ノ術ヲ施ス人ニ侵損ス 不可謂況ヤ子女妻妾父母尊長ニ高職ノ或ハ其情令ヲ受隨胎スル者ニ尤テテ十知何心可憐或隨胎ハ其情嬰児ノ後入ト相距不遠同リ一家共犯律ニ依リハキニ非ハ其尊長ニ屬シ又ハ指令ヲ受ル者ハ首從ヲ分テ罪科ス

⑪ 指令第一号京都府衙

男女私通ノ末隨胎スル者身自ラ犯首ト同シ首從ノ法ニ依ラズ同罪ニ可處首從ニ歸テ裁判所ノ御指令指是ハ然ニ當應

盜賣田宅

凡他人ノ田宅ヲ盜賣換易買認典賣スル者ハ並ニ竊盜ニ準シテ論シ罪流三等ニ止ル官ニ係ル者ハ各二等ヲ加フ田産及ヒ典賣スル田價並ニ遞年得ル所ノ花利ハ各官ニ還シ主ニ給ス

重典賣田宅

凡已ニ典賣シテ人ニ與ル田宅ヲ將テ重テ典賣スル者ハ得ル所ノ價錢ヲ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論シ價ヲ追徴

令ハ是迄ノ通可相心得事

第百九條 凡田宅販籍ノ文字ヲ變易

スル者ハ懲後一年半財ヲ得ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シ重キニ從テ論ス

シテ主ニ還シ田宅ハ原ノ典賣主ニ附ス若シ重テ典賣スルノ人及ヒ牙保情ヲ知ル者ハ犯人ト同罪價ヲ追シ官ニ入ル知ラサル者ハ坐セス其典賣スル所ノ田宅園林等年限已ニ滿チ本主價ヲ備ヘテ取贖スルニ若シ典買至事故ニ託シテ肯セサル者ハ答三十限外ニ於テ通年得ル所ノ花利ハ追徴シテ本主ニ給シ原價ニ依テ取贖セシム其年限滿ルト雖モ本主取贖スル力ナキ者ハ此律ニ均ハラズ

棄毀器物稼穡

凡人ノ器物ヲ棄毀シ及ヒ樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ

棄毀器物稼穡條例

第百十條 凡牛馬ヲ失防シテ田野ノ殺麥ヲ毀損スル者ハ違式輕ニ依リ若シ毀損スル所贓ニ計ヘテ重キ者ハ坐贓ニ依リ二等ヲ減シ仍水毀損

新律綱領

〇戸婚律

改定律令

〇戸婚律



ヨリ中井小春十ル者并上定吉、登道ノ  
未變境ヲ改換同ニハ善ハ故後律ニ依リ  
懲役三年定吉ハ從テ以テ論シ同二年半  
ト御指揮之アリ云々猶又伺出候案專長  
ノ卑幼ヲ謀殺スル云々ハ特別ノ權衡  
ナリト心得ヘシト 御指揮之アリ本  
和歌山縣ハ其專長ニ商議シ又ハ指令  
ヲ受レ者ハ首從ヲ分テ罪ヲ科スト御指  
揮相見右ハ何レニ從ヒ相商可仕哉  
墮胎ハ懲役百日トアリ要處ヲ殺入者ノ  
各等親ニ依リ區別スルト同シカラズ  
樂施行ノ者同罪ナレハ共謀商議スル  
ハ同罪ニテサレテ得サルヲ以テ首從ノ  
法ニ依ラス特別ノ權衡ト指令致シ來候  
所更ニ律文ヲ詳明スルニ名例ニ共ニ罪  
ヲ犯入者違意一人ヲ首トシ隨從ハ一者  
ヲ減ストアリテ墮胎ノ律首從ヲ分テサ  
ルノ文ナキニヨリ一ニ名例ノ成文ニ依  
テ審斷セサル可ラス因テ和歌山縣指令  
ノ通再議相成候事

論入官物ハ一等ヲ加フ若シ官物ヲ遺  
失シ及ヒ誤毀スル者ハ各三等ヲ減シ  
並ニ數ヲ驗ノ追償ス私物ヲ遺失誤毀  
スル者ハ但々償テ罪ニ座セス

立竊違法  
凡竊長子孫亡沒疾病等ノ故無クシテ  
竊子ヲ立ル者ハ杖七十仍本竊子ヲ改

スル所ノ物ヲ賠償セシム

第百十一條 凡故ナク河防ヲ決潰シ  
水柵石籠ヲ毀損スル者ハ情ヲ量リ  
テ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツ

同七年十二月二十日司法省第三十号達  
官林及ヒ社寺境内ノ首有二係ル竹木  
ヲ擅伐シテ民費ニ係ル橋梁及ヒ社  
寺修繕等ニ用ユル者ハ違令輕重ニ  
問フテ代價ヲ追徴ス

同年四月二十五日司法省第八號布達  
地券證書ヲ遺失誤毀スル者ハ論スル  
丁勿レ

立竊違法條例  
第百十二條 凡子女ヲ棄ル者ハ父母養父

處分ス可キ該處現在スル時ハ追徴ス

八年第四十五号廣田縣伺  
竊殺夫相謀テ逃走スルノ際係婦本夫  
隨身ノ財物ヲ携帶スル者ハ其本夫ニ負  
テ家ヲ去ルノ中自ラ夫婦ノ情義ヲ滅絶  
スル者トナシ罪ニ計ヘ凡人携帶ヲ以テ  
可論裁將父姦婦ノ意中已ニ本夫ヲ絶ツ  
ト雖本夫婦ノ義ニ從テハ未タ絶ヘサル  
ト見做シ私擅用財ヲ以テ論スヘキ哉  
私擅用財ヲ以テ罪ヲ科ス

八年第六十号京都裁判所伺  
妻ニ同居ノ母系ニ兄ノ妻(本和ヨリ)及ヒ  
弟妹ノ衣類合シテ若干點倉庫内ノ一櫃  
中ニ收メアルヲ擅ニ取出テ賣拂フ者之  
アリ右ハ其母及兄ノ妻ノ衣類マテ數ニ  
計ヘ私擅用財律ニ依ツテ處シテ弟妹ノ  
分ハ論セスシテ可然裁將父其全數ヲ可  
科裁全數ヲ計ヘテ罪ヲ科ス

九年第第一号滋賀縣伺  
子第私擅用財ノ如キハ律ニ正條無之ト  
雖之父兄ヨリ自ラ吉ルニテラサレバ其  
罪不問ニ可置儀ト指心得可然裁裁(親告  
ヲ待ツノ限ニアラス)

九年第五十四号此條照伺  
五月三日

立シム若シ養父母親生ノ子ナキニ  
養子捨去ル者ハ徒二年養父母親生子  
アリ本生父母子ナクシテ還ラント欲  
スル者ハ聽ス

逐婿嫁女  
凡無罪ノ婿ヲ逐テ女ヲ嫁シ或ハ再ヒ  
婿ヲ招ク者ハ杖九十其女ハ坐ヒス男  
家ノ娶ル者及ヒ後贅ノ婿情ヲ知ル者

母ヲ分クス並ニ懲役百日繼父母ハ  
一等ヲ加フ雇ヲ受ケ棄ル者ハ懲役  
九十日婦女ト雖モ收賏スル丁ヲ聽  
サス

第百十三條 凡財ヲ圖リ人ノ子女ヲ  
乞養シテ棄ル者ハ懲役十年婦女ト  
雖モ收賏スル丁ヲ聽サス殺入者ハ  
斬

第百十四條 凡故サラニ墮胎スル者  
ハ懲役百日情ヲ知テ藥ヲ賣リ及ヒ  
技術ヲ施入者ハ同罪婦女ト雖モ收  
賏スル丁ヲ聽サス

新律綱領 ○戸婚律

改定律令 ○戸婚律



同居ノ昇幼尊長ノ他人ヨリ寄託ノ財物  
 タル情ヲ知テ窃ニ之ヲ持出シ費用スレ  
 ハ子弟私擅用財ヲ以テ論スル歟將タ受  
 寄財産ノ費用律ノ權衡ニ依リ坐罪ヲ以  
 テ論シ可然哉○子弟私擅用財律ニ依テ  
 論ス

○九年第廿五号東京裁判所判例  
 各居ノ父其子ノ寄託ヲ擅ニ抵當ニシテ金  
 ヲ借得ル者ノ儀ニ付相備候成算案ヲ明  
 細ニ記載シ再伺フベシ御指合有之右  
 ハ中村吉藏ナル者横濱太田丁二丁目ニ  
 在候節同寄託生町五丁目中村又五郎  
 ヨリ口々借用金百之二十一筆ノ證書ニ  
 相改候節同所預當町ニ別居政居候俣和  
 助所持ノ家作ヲ抵當ニシ月賦返濟ノ約  
 ナシ爾後返済滞被及出訴候ヨリ追  
 悔自首致候儀ニ有之則別紙文目訴状相  
 副更ニ相備候節同面ノ如キ父ノ寄託  
 子擅ニ抵當ニシ金四ヲ借得ルト雖モ子  
 二對シテハ罪ノ論入ヘキナシ然モ人権  
 利妨ノル所レ裁判官見込テ以テ成金ニ寄  
 附指令録第五号京裁判所判例同十二  
 出母其子財産及母母財盜ハ何可成  
 漢出母其子財産及母母財盜ハ何可成

八 同罪知ラサル者ハ坐セス  
 匿父母夫妾  
 凡父母及ヒ夫ノ喪ヲ聞キ匿シテ居喪  
 セサル者ハ徒一年  
 其祖父母父母死スト詐稱シ若ハ喪  
 ニ居テ嫁娶スル者ハ各杖二百  
 子弟私擅用財  
 凡同居ノ子弟私擅ニ父兄ノ財物ヲ用  
 エル者ハ一十兩ニ管一十、一十兩毎ニ  
 一等ヲ加ヘ罪杖一百ニ止ル

子弟私擅用財條例  
 第百十五條 凡同居ノ昇幼尊長ニ由  
 ラスシテ私擅ニ家ノ財物ヲ用アル  
 者ハ子弟私擅用財律ニ依ル  
 第百十六條 凡僧尼師ノ財物ヲ盜ス者ハ  
 子弟私擅用財律ニ依ル同居ノ徒弟相  
 盜ス者ハ親屬相盜律ニ依リ凡人三等ヲ  
 減ス其各居ニ係ル者ハ師弟ト雖モ並ニ

○八年第廿五号鳥取縣判例  
 寄備軍通官者抽籤ノ上籤蓋ニ到リ入  
 管ノ際ニ臨ミ逃ニスル者アリ右ハ名氏  
 重箱ニ在リト云モ未タ軍役ニ服セナル  
 ヲ以テ例第廿八條ノ例ニ準シ常人ト同  
 シ二年内外ヲ區別シ科斷可然哉  
 ○同ノ通

○九年第廿五号筑摩縣判例 一月九日  
 徵兵年齡相當ノモノハ管テ他出テ禁ス  
 ルノ所検査ヲ規定シ其兵後ヲ遣レント  
 為ノニ私擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過キ  
 後歸自首スル者アリ右ハ其罪ヲ犯ス故  
 遣ニ係リ情狀免マシラス其之ヲ問フ  
 遠令ニ擬シ出他管ハ自首ヲ聽シ可然カ  
 又ハ併テ罪ヲ免スヘキカ○検査ノ期ニ  
 後レ事ニ管アル者ハ通令ニ問フ其事ニ  
 管アラサル者ハ自首ヲ聽フベシ

○九年第廿五号滋賀縣判例 二月廿五日  
 未決囚脱監逃走シ他管ニ出テ二年以  
 外ニ及フ者其本罪ニ二等ヲ加ヘ懲後ハ  
 十日ヨリ輕キモ亦別ニ逃亡ノ罪ヲ論セ  
 ス自首スレハ加等スヘキノ罪ヲ免止タ  
 本罪ヲ科シ可然哉○同ノ通

○已決囚逃走シ他管ニ出テ二年以外

逃亡	凡本籍ヲ脱シテ逃亡スル者ハ杖八十 士族卒ハ一等ヲ加フ。
----	--------------------------------

凡盜ヲ以テ論ス	凡盜ヲ以テ論ス
逃亡條例	第百十七條 凡脱籍逃亡シテ二年以 外復歸セサル者ハ律ニ依テ科斷シ 華士族ハ破廉耻甚ヲ以テ論ス
第百十八條	凡逃亡シテ二年以外復 歸シ及ヒ自首スル者ハ自首ヲ聽サ スト雖モ平民ハ賤罪ニ處シ華士族 ハ族ヲ復ノ極ヲ給セス
第百十九條	凡逃亡スル者再犯以上 ハ一等ヲ累加シ罪懲役一年ニ止ル
第百二十條	凡官廳ニ陳告セスシテ 私擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過ル者 ハ違令重ニ問フ

新律綱領 ○戸律

改定律例 ○戸律



ニ及フ者モ止夕擇鎮ニ日ヲ科シ別ニ逃亡ノ罪ヲ論セスシテ可然哉(同)伺ノ通

○處刑濟ノ者送籍中途ニ在リ及ヒ無籍無産ニシテ授産場ニ在リ或ハ鞠間中監禁シ置キ遂ニ無罪トナル者等逃走シ佗管ニ出テ五十日及ヒニミテ過ル時ハ改定律例第百十七條第百二十條ニ照シ重キニ從ヒ處断シテ可然哉(同)伺ノ通

○指令録第十二号新舊裁判所併同

七年二十 筑摩縣何婦人逃亡シテ二年以外復歸シ及自首スル者ハ呵責ニ從スト御指合有之尋テ七年山梨裁判所何男夫ニテ老小瘵疾ノ者共同探婦人ノ確所ヲ以呵責ニ可處哉(同)伺ノ通有之及ハ七年愛知縣何但書ニ婦人逃亡ニ二年以外ニ及復歸シ自首セサル者モ呵責ニ可處哉(同)伺ノ通トアリ之ニ依テ此ヲ見ルニ他管擅出五十日以外復歸スル者ハ内復販セサルモ素ヨリ收賍ニ處スヘキ婦人及老少瘵疾者既ニ復歸自首スルハ無論正條ニ依リ免罪又復歸シテ自首セサルハ呵責ニ處シ候テ穩當ニ可有之ト存候

○伺ノ通

奴婢逃亡	凡奴婢及ヒ雇人逃亡スル者ハ答三十。
------	-------------------

第百二十一條 凡外國ニ逃亡スル者ハ逃亡罪ニ二等ヲ加フ

明治十年十月太政官第七十六号布告

各律改正ノ内逃亡律例都テ删除ス

余此旨布告矣事

○八年第五十四号新舊裁判所併同ニシテ官幣大社ノ境内ニ在ル遺棄物ノ神御室ヲ盗ムモノハ小社ニ准シテ一寺ヲ減シ官幣國幣中小社ノ扱束社ハ府縣社ニ准シテ一寺ヲ減ス府縣社ハ府縣社ニ准シテ一寺ヲ減ス

○社寺境内ノ官有ニ係ル樹木ヲ盜伐スル者ハ常人盜ニ准シテ論シ其境内官有ニ係ラサル者ハ窃盜ニ准シテ論ス

○八年第六十七号廣島縣何 第一

律例中村社ノ神御神室ヲ盜者ノ正條無之就テハ七年廿三号(郷社ノ例ヲ以論ス)ヘシト御指合相見然ル處當時村社ノ神體ヲ竊取スル者アリ右伺ニ依リ杖九十處決可致候ト存候(共神體ト御物トニ於ケル自ラ輕重ノ分アリ然ルヲ同視スルモ聊カ允當ナラサルニ似テノ故ニ一寺ヲ加ヘ可然哉(同)伺ノ通

○九年第五十五号度會縣何 三月三日

例第百二十三條ニ凡伊勢神宮云々ト然ルニ伊勢神宮ノ別宮及攝末社ハ官國幣社ノ列ニアラスト虽モ其神御神室ヲ盜公如キニ至テハ官國幣大社ト同ク處置シ可然哉(同)伊勢神宮ノ別宮及攝末社神

新律綱領目録

賊盜律計二十二條
盜大祀神御物
盜乘輿服御物
盜官文書
盜官印
盜兵器
盜園陵内草木
監守自盜
常人盜
強盜

改定律例目録

賊盜律計三十八條
盜大祀神御物二條
盜乘輿服御物一條
盜官印一條
監守盜條例一條
監守自盜條例一條
監守盜常人盜條例一條
監守盜一條
常人盜一條
同條例二條
同條例一條
強盜七條
同條例一條



御神室ヲ盗ム者ハ官國幣小社ト同シ論ス  
 ○伊勢神宮及ヒ別宮撰末社神前ノ寶錢ヲ盗者ハ比常ノ盗ヲ以テ論シ監守者自ラ盗ム者ハ監守盗ヲ以テ論シ可然哉但國幣大中小社及府縣社ノ寶錢ヲ盗ム者又同ノ罪トシテ論シ可然ヤ  
 ◎大祀大社以下撰末社ノ寶錢ヲ盗ム者ハ監守常ノ人ヲ區別シ各盜罪ヲ以テ論ス但書本條ニテ會得スベシ  
 ○指令録第五号京都裁判所同 古本四官幣以下ノ神社ニ進奉セシ旗幟帷幕ハ類ハ神御物ヲ以テ論スト曾テ御指令相見若然ルハ其神前ニ懸ル鈴又ハ鈴ノ緒ヲ盗ム者モ神御物ヲ以テ論スルニ可有之哉右ハ其神殿ト算段トニ於テ區別モ可有之哉◎餘人鈴緒神殿内ニ在ルモノハ神御物ナリ其神殿ニ在ル者ハ賊ニ計ヘ各盜罪ヲ以テ論スベシ  
 ○八年第四十四号和歌山縣同 二年同 炭二人ノ戸隙ヲ窺ヒ筐笥中ニ藏メ之アル印類ヲ盗出シ證書願書等ニ押捺シ印類ハ元ノ如ク竊ニ投還スル者アリ是レ私印ヲ盗ムヲ以テ論セン乎其心情到底印影ヲ捺用スルニ在ラ以テ其罪不應

劫囚	竊盜	盜官私牛馬	盜田野穀麥	親屬相盜	奴婢盜家長財物	恐喝取財	詐欺取財	略賣人	兇徒聚衆	夜無故入人家	盜賊窩主
----	----	-------	-------	------	---------	------	------	-----	------	--------	------

劫囚 一條	竊盜 五條	同條例 二條	盜官私牛馬 二條	親屬相盜 一條	雇人盜家長財物 二條	改正雇人盜家長財物 一條	略賣人 六條	兇徒聚衆 四條	夜無故入人家 一條	盜賊窩主 四條
-------	-------	--------	----------	---------	------------	--------------	--------	---------	-----------	---------

為嚴重ニ問ヒ可然哉◎私ノ印影ヲ盗ム者ハ竊盜未得財ヲ以テ論ス若シ行使シテ財ヲ得ル者ハ賊ニ計ヘ各盜罪ヲ以テ重ニ從テ論ス  
 ○八年第四十九号敦賀縣同 二年同 反ニ甲アリ曾テ乙ノ実印ヲ竊取シ以テ借金證書ヲ詐為シ期限満滿ヲ言ニ書シテ因テ乙ヲ喚問スルニ曾テ全ラ信リシコトナク又證書ヲ毀ヘタルヲモナシ且實印ハ紛失セント答テ審判中專察覺スルル片ハ甲ハ例第百廿五條私印ヲ盗ミ及第百四十六條私ノ文書ヲ詐為スル不應為ノ犯罪ナルヲ以テ各例律ニ罪俱發例ニ依リ盜罪ヲ重トナシ可糾斷野是等ハ律例第百四十七條告示詐不以実ヲ以テ論シ重トナシ糾斷スベキ哉◎本文三罪中一ノ重キヲ以テ論ス  
 ○前同斷ニ於テ人ノ遺忘シ去ル実印ヲ竊取スル者ハ律例第百廿五條ノ盜罪ニ准シ可論ヤ◎同ノ通  
 ○九年第七号和歌山縣同 一月廿二日 本附ヲ以テ人ノ戸隙ヲ窺ヒ筐笥中ニ藏メ之有ル私ノ印類ヲ盗出シ願書證書等ニ捺用シ印類ハ元ノ如ク竊ニ投還ス

共謀為盜											
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

同條例 一條											
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



